義太夫雜誌第一號目次

本誌の發行に就て

岡田 廉二

論 說

上るり十二段

小野 阿通

義太夫と國家の關係

雜 錄

紫 山 人

祝 詞

義太夫雜誌の發行を祝す

武石 八之丞

綾之助の雜事

翼々 居士

義太夫雜誌發行の祝辭

甲田 倭文兄

かまりの事

同 人

義太夫雜誌の發刊を祝して

紫 山 人

がぎぐげこの事

鈎深亭 主人

義太夫雜誌の發兌を悦びて

竹本播磨太夫

かさねの事

小 雅 人

寄 書

つねく草

峰の家 主人

三味線の權輿

加藤 尾花

義太夫節淨瑠璃に就て

牧野 竹園

傳 記

前年中の記事

戯曲 狂夫

近松門左衛門小傳

服部 霞峰

雜 報

批 評

○練磨會の發會式○三絃の二名家○女義太夫の樂

近松戯文評

情 農 子

屋○龍虎神田に戰ふ 外數件

竹本綾之助短評

夜明亭 主人

餘 興 三絃友

峰の家霞 撰

饒 舌 竹本綾之助
竹本小土佐

七文字屋微笑

本誌目次

(社説) ○義太夫と國家の關係 ○(古曲) 淨瑠璃姫の十
 二段(承前) 小野の通女 ○(同) とら御前待宵のうらみ ○
 (同) 心中江戸三界近松翁の抜書 ○(寄投) 義太夫雜誌發
 行の祝 ○(同) 近松翁の戯文評(承前) 惰農子 ○(同) 義太
 夫作がらの事翼々居士 ○(同) 俳句見立評春曙山人 ○
 (同) 小川亭にわきて笹木寸長 ○(同) 團平は慷慨家あり
 義曲野史 ○演藝獎勵會の一口評七文字屋微笑 ○(饒舌)
 竹本越子の事 ○竹本清玉の事 ○(雜錄) 孫福齋の觸書牧
 野竹園 ○(同) 播磨椽とシエークスピヤ翼々居士 ○(同)
 竹本綾之助に就て日本橋の住人 ○義太夫に關する「イ
 ウフホニ」の事釣深亭素樂 ○演戲作柄の事岡田壽樂 ○
 淨瑠璃外題集加藤尾花 ○試に本誌の前途を筮す不住居
 士 ○義太夫語りの飲料釣深亭主人 ○つねく草「三郎
 が笛」熊谷直實遁世「秀吉公の御目のひかり」「辨慶」
 「最負」峰の家主人 ○(雜報) 大隅太夫、鶴澤友次郎、京の
 淨瑠璃大會、新呂の又頼智、醫者の昔は義太夫語り、其
 外 ○餘興曲子三絃の友(と、ら)廿七句)

○貸本の廣告

政治小説歴史法律醫書隨筆傳記等可成安く貴需に應ず
 駿河臺西紅梅町六番地諸新聞取次所 衷和堂

書畫文案意匠

紹介者峰の家
 應需

松本江西

社告

第一號の編輯不整且校正も不行届にて誤殖等
 多き段爰に謝す又「上るり十二段」の假名づか
 ひの相違の本の儘なれり此段問合の人に告ぐ

義太夫雜誌第一号に紫山人と云ふ投書家あり爲めに
 辱知の諸君より御問合せの向も御座候得共其人の小生
 も同名異人に付き御斷り申上候

讀賣新聞社

堀 紫山人

京橋區南紺屋町十九番地

●技術の巧なると値の
 ●廉なる他に比類なし

得兩館活版印刷所

神田地方は義太夫雜誌社へ御注文あるも差支なし

義太夫雜誌第二號目次

論語

義太夫と國家の關係……………一丁

古曲

上るり十二段(奉節)……………三丁

(淨瑠璃のはじめ)

玉ものだん五どんめ ぬひものゝどん六どんめ

文園

鶴の雌雄(譬喩經の譯)……………鈎深亭 素樂……………六丁

俳句并短歌……………六七丁

批評

豊竹若太夫の事……………豊澤團平……………八丁

情歌見立評俳句……………知顔太夫……………九丁

竹本住之助に付て……………藪澤道人……………十丁

都賀太夫の事……………十丁

團十郎宗十郎夜討會我の争評決……………十二丁

義太夫の作は凡て忠義の作……………社辨……………十二丁

市村座評の辨……………同上……………十三丁

雜錄

天狗狐につまゝる話……………翼々居士……………十四丁

(附思想の辨)

女義太夫まさ鶴狐となること……………十六丁

茶碗屋巴太夫節附の事……………十七丁

ザの字づくし……………十七丁

市村座類焼に就て……………社辨……………十七丁

雜報

厚生館三府義太夫大會○十三太夫の事○大坂に於

ける播磨太夫○松方伯と美壽尾太夫○信州松本の

天狗連○大隅團平の一行○蟹甲將軍○十三太夫の

評○博多に於る竹本土佐榮○越路に浪太夫

餘興曲子

女義太夫五名投票報告(其他數件)

義太夫雜誌第四號目次

論說 寄書 傳記 投書 文園 批評 雜錄 餘興

義太夫と國家の關係	桃の家鶴彦	四頁
院本の話	加藤 尾花	五頁
竹本義太夫の傳	蜂の家 霞	七頁
竹本出雲の小傳	杉山大作 投	七頁
わかる勘平雪冤談	豐澤 團平	九頁
誤辯		
節の和歌		十頁
あしかりのだん		十二頁
愉快歌		十三頁
釋尊の噺戲譯	翼々 居士	十三頁
句評	菅廟 邊人	十三頁
大隅太夫。團平。此太夫。伊達の事	亭	十四頁
太十と三日太平記の比較評	人	十四頁
京枝の事		十六頁
竹本東玉の事	七文字屋微笑	十七頁
女義太夫の名稱の事		十八頁
おちやびいの事		十九頁
義太夫演劇并女義太夫豫想		十九頁
陸中花輪町千太郎の事		二十頁
英語の摘譯		二十一頁
枕久の事	樂壽亭 壽樂	二十一頁
巢林翁の逸事	服 霞 峰	二十一頁
陸正義の親睦。團玉の歸國。諸新聞		二十一頁
義太夫雜誌評。其他數件		二十一頁
物はづくし		五頁

◎義太夫練磨會廣告

本會ハ明治廿五年の九月創立せしものにして會員既に三百有餘名の多きに至れり本會の要旨ハ採長補短を本とし切瑳琢磨の効により義太夫謡曲の進歩を計り俚俗の快樂をして優逸ならしむるにあり左れば入會を望まざる諸君は藝人と否とを論せず黨派を問はず老幼男女に關せず廣く之に應ずるものなり規則書を要せば郵券二錢封入本社内左の者宛にて御申込次第進呈すべし

廿六年三月

幹 樂壽亭 壽樂
事 七文字屋 微笑

花の雫

毎月二回。五日。廿日發行一部定價三錢五厘十部前金卅錢郵稅十錢

一本誌は四方雅伯粹士の名吟玉句を集め有名なる宗匠大人に撰評を乞ひ其最高妙なる者而已を掲載する者にして恐らくは風雅雜誌中此右に出るものなからん

漫筆 金花翁翁假名垣魯文 其他艶文藏文古事雜錄

小説 松林伯圓先生演 夜雪庵金羅 不白軒梅年 其角堂機

發句 定撰 夜鶴庵覺齋 暉素庵桂香の各宗匠

情歌 一撰 鶯亭金升 醉花園醒水 櫛の屋色人

狂句 會田皆眞大人 狂歌 秋琴亭緒依大人

冠句 櫛の屋色人先生 林鴻堂万年 壽量坊四山の各宗匠

東京市京橋區銀座二丁目十三番地

花の雫發行所

芳文堂

◎社告◎次号には女義太夫の番附を添申(但し公評にて定むる者なれば投書すべし)

義太夫雜誌第五號目次

謾言	天狗の事 翼々居士...一頁
寄書	與女義太夫書 檀々子...三頁
傳記	耳塵集抜書 櫛の屋色人...四頁
古文	院本の話 桃の屋鶴彦...四頁
曲園	西澤一風小傳 峯の家霞...五頁
批評	竹本小土佐小傳 七文字屋微笑...五頁
雜錄	上るり十二段(承前) 小野通作...六頁
雜報	源藏の徳利 蜀山人...八頁
餘興	祝歌一首 木村武之祐...九頁
附錄	はり扇(小説) かすみ...九頁
廣告	饒舌(宵小清豐行) 七文字屋微笑...十頁
(社告)	一句の評判 竹本越子岡目評...小土佐
	一口評 柳と駒辰...女義太夫見物記
	豊竹一二三 八重子の評
	團平師の教訓 竹本品太夫...十一頁
	東西々々の事 花の家鉦月...十二頁
	厭ふべき理由 个坡情仙...十二頁
	天河屋儀兵衛の事 樂壽亭主人...十五頁
	浄瑠璃古今の序 朱鞭子...十五頁
	門左衛門に就て 服霞峰...十七頁
	有髮無髮の事 釣深亭主人...十七頁
	近松翁の追悼會 月次會...大字五行
	床本の豫約 小土佐嬢よりの來狀
	諸新聞にて本誌の評判
	情哥 一口嘶...粹多樂史...九頁
	太平記忠臣講釋 近松半二...一頁
	相摸入道千疋犬 近松門左衛門...五頁
	數件
	本誌より最も編輯に注意を加へ且つ少しく改良の上毎號古人の傑作を附録とし掲載す

◎義太夫練磨會廣告

本會ハ明治廿五年の九月創立せしものにして會員既に三百有餘名の多きに至れり本會の要旨ハ採長補短を本とし切瑳琢磨の効により義太夫謡曲の進歩を計り俚俗の快樂をして優逸ならしむるにあり左れば人會を望まざる、諸君は藝人と否とを論せず黨派を問はず老幼男女に關せず廣く之に應ずるものなり規則書を要せば郵券二錢封入本社内左の者宛にて御申込次第進呈すべし

廿六年三月

幹事 樂壽亭壽樂
七文字屋微笑

花の雫

一本誌は四方雅伯粹士の名吟玉句を集め有名なる宗匠大人に撰評を乞ひ其最高妙なる者而已を掲載する者にして恐らくは風雅雜誌中此右に出るものなからん

漫筆 金花翁假名垣魯文
小說 松林伯圓先生演 其他艶文戯文古事雜錄
發句 定撰 夜雪庵金羅 不自軒梅年 其角堂機
情歌 一撰 夜鶴庵覺齋 暉素庵桂香の各宗匠
狂詩 會田皆眞大人 狂歌 秋琴亭緒依大人
冠句 櫛の屋色人先生
林鴻堂万年 壽量坊四山の各宗匠

花の雫發行所
芳文堂
東京市京橋區銀座二丁目十三番地

義太夫雜誌第六號目次

論說	漫言	寄書	傳記	古文	園曲	批評	雜錄	雜報	餘興	附錄															
義太夫謠曲の壽天	東西を有髮	越路太夫小傳	竹本綾之助小傳	上るり十二段(承前)	歌句數首。はり扇(二)	大隅太夫	見て見ぬ人	竹本小虎	竹本播之助	一句の評判(二)	竹本越子(承前)	六月三日東橋亭	石本亭初晩評	忠臣講釋誤解の辨	假名遣	雜話一からけ(畫入)	有髮の事一再	在京女義太夫の番附發表に就て一言	大隅太夫の一座	ドクトル	燕太夫	冠句附	太平記忠臣講釋	相模入道千疋犬	前號より最も編輯に注意を加へ且つ少しく改良の上毎號古人の傑作を附録とし掲載す
蟬	桃の屋	峰の家	七文字屋	小野通	かす	服霞	七文字屋主人	知顔太	あほひ女	花の家	堅胃堂	瓣香	末廣家	翼々	豊竹新呂太夫	義太夫	釣深亭	約竹豊連	音靈記	壺阪寺	あこく	近松半二	近松門左衛門		
子	彦	霞	笑	女	み	峰	史	夫	史	男	月	史	史	士	夫	史	主	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

◎義太夫練磨會廣告

本會は明治廿五年の九月創立せしものよしして會員既に三百有餘名の多きに至れり本會の要旨は採長補短を本とし切瑳琢磨の効より義太夫謠曲の進歩を計り俚俗の快樂をして優逸ならしむるにあり左れば入會を望まるゝ諸君と藝人と否とを論せず黨派を問はず老幼男女に關せず廣く之に應ずるものなり規則書を要せし郵券二錢封入本社内左の者宛て御申込次第進呈すべし

廿六年三月

幹 樂壽亭 壽樂
七文字屋 微笑

(速記彙報)

正價 一冊 八錢 十二冊 冊前 金九 十錢 全國 無料 送料

速記彙報第五十二冊出づ、築地活版所長曲田活字、就ての話は明治五六成君の活字、年頃の活字世界の有様を讀者の眼前に紹介せり、土耳其より歸朝せられたる、土耳其風呂、山田寅次郎君の土耳其風呂、一讀土耳其風呂に浴するの快を覺ふべし、偶田川浪五郎、談話手品師、偶田川浪五郎、談話は慶應二年横濱出帆より桑港着までの船中の奇談を武藏西北部の孕めり其他、速記に關する論は讀者を驚かすべく、速記に關する論說雜報は速記者及速記修業者を益すべし、東京神田區裏神保町一番地

速記彙報發行所

義太夫雜誌第七號目次

義太夫謠曲の壽天

初對面

翼々居士に明解を望む

義太夫語昔日譚

紀海音小傳

本誌の盛大を祝して

小清嬢に與ふて

はり扇(三)

長谷川兜軍記阿古屋琴責の段

素巴奴記(一)

七文字屋主人に答ふ

在京女義太夫諸姐品々進上東

淨瑠璃語り方心得

聲曲雜話

吾妻座福井景况

有髮の事に就て

馬追船頭お乳の人と云ふ事

網太夫の事

部屋の符誅語(未定)

竹本播摩太夫歸京附文樂座の事

會の紛議

粹多樂誌情歌數首

太平記忠臣講釋

編輯の都合より上るり十二段と相模入道千疋犬次號より續々掲載致します

骨皮道人

桃の屋主人

硯海醉人

峰の屋霞

梨亭金升樂

鶯すみ

かすみ

傍若無人

堅胃堂主人

東紫郎

是和史

あふひ女史

蟬々子

未廣家要人

辨香醉史

壽亭主人

竹坡情仙

是和亭主人

近松半次作

相模入道千

疋犬次號より

續々掲載致します

掲載致します

義太夫雜誌改良廣告

當義太夫雜誌の儀幸ひに粹様方の御引立に依り彼の三號と云へる大厄も無難も過ぎ續で第六號まで發行致し候得共未だ誌面に不完全の所も尠からざれば此際目覺しき大改良を爲し聊か御愛顧の萬一に酬ひんと略計畫の折から恰も好し斯道熱心の方々よりいとも懇ろなる御忠告等も有之候旁茲に先づ第一着として當時の文壇の老將一奇獨特の滑稽博士と世に聞へたる骨皮道人君を聘して之が顧問と爲したれば所謁錦上花を添へ龍虎翼を得たるの思ひあり猶今後は着々歩を進めて善盡し美盡すの用意も已に整頓致し候得ば何卒倍舊御最負御引立の程偏よ奉願候敬白

義太夫雜誌社

本號の目次

再興條	再興を祝す	桃の屋鶴彦
院本の話	菊の屋六子	
新聲館を難す	櫛の屋笹人	
女義太夫の原始	黒田撫泉	
義太夫雑誌の再興を祝す	鶯亭主人	
再刊梅花榮	合	
竹曲古物博覽會狂歌合	服霞主人	
いと櫻(小説)	順理堂主人	
重險(小説)	合	
又饒舌竹本綾瀨太夫。花澤小房。	合	
竹本小政	合	
藝苑噂聞書 京班。小染。源太夫。組太夫。	合	
女義太夫の分拆に就て傳通轉愚に	合	
世の藝評家に	合	
くせよせ	合	
句評判一二	合	
娘淨瑠璃短評	合	
竹本お傳(二代目)	合	
故竹本住之助	合	
女淨瑠璃の事	合	
雜筆	合	
忠臣藏に係る院本	合	
七福人	合	
綾瀨と彌生。住之助。プラウド。義太夫會。素行の俠心。播磨と小土佐。ギダ黨の現況。若竹と宮松。賣嬌の隨一。小人世界。	合	
考へもの。とッ一。一目千人。	合	
廣告	合	

義太夫雜誌前卷 掲載要目

○論説 義太夫と國家の關係、義太夫謠曲の壽天○寄書 三味線の權輿、院本の話、耳蘆集抜書、東西と有髪○傳記 近松門左衛門小傳、竹本義太夫の傳、竹田出雲小傳、竹本東玉小傳、西澤一風小傳、竹本小土佐小傳、越路太夫小傳、竹本綾之助小傳、紀海音小傳○古曲 上るり十二段○批評 近松戲文評、海音戲文評、竹本綾之助、竹本小土佐、俳句見立評、團平と慷慨家ぶり、竹本越子、竹本清玉、竹本小清、豊竹素行、柳と駒辰、豊竹一二三、八重子の評、大岡太夫、竹本小虎、竹本播之助、素巴奴記、七文字屋主人に答ふ○雜錄 綾之助の事、なまりの事、累の事、つねく草、前年中の記事、孫福齋の廟書、播磨椽とシエクスビヤ、義太夫に關するイウフボニー、淨瑠璃外題集、豊竹若太夫の事、竹本住之助に就て、京枝の事、椀久の事、菓林翁の逸事、團平師の教訓、東西の事、天河屋儀兵衛の事、門左衛門に就て、有髪無髪、義太夫語昔日譚、ふたくさ、聲曲雜話、馬追船頭お乳の人といふ事、綱太夫の事、樂屋の符譯語、門左衛門の墓に就て○文園 さら御前まつ宵のうらみ、心中江戸三界、あしかりのだん、愉快歌、小説そり扇、源藏の徳利、和哥俳句○設言 天狗の事、與女義太夫書、義太夫節を聽く人に、初對面、義太夫は語るべし義太夫と語るべし勿れ其他投票によつて定めし女

義太夫五名家 則ち名望家、愛嬌家、美音家、巧藝家、美貌家の報告、女義太夫の公平なる**番附**あり、素人連にも岡目八六九評あり○餘興 義太夫に關せし情哥、女義太夫名前詠込み情哥、義太夫文句詠込み情哥、物はつくし、冠句附一口はなし、なぐく、文句入

右御用のお方は一部三錢全部二十錢にて差上候也

本號の目次

菊六子の狂暴に驚く	牛込の素樂
下作者に代て讀ませす	餅乃家主人
上るり十二段(古曲)	小野 通女
續平家物語(新作淨瑠璃)	金波樓主人
祝 詞	
無くもがな	粹多樓主人
たねひきご抄	吾妻家 都
盲妻(小説)	金舟 居士
ふさぎを(小説)	ち は る
海音戯文評	露の 家尾花
淨瑠璃評註	宮田 鬼窟
六佳撰	葦川 漁史
見聞歌評	茂 句 念
句評判二度目戯	掬水齋主人
新陸派雜評	七 文 宇
彌生の靈阪寺	合 作
藝苑噺聞書源太夫と祖太夫小築と京班)	夢 中 山 人
つんぼ評	芝 口 邊 人
小土佐の白石嚼	組 月 生
花澤小房傳	い ろ は 樓 人
七福人の見立	か 蝶 生
はかき呈上	水 品 散 史
豊竹呂昇の傳	萬 廬 家 主 人
男太夫と花と	樂 壽 亭 壽 樂
土佐吉の傳	
三味線の榮	
愚軒と綾之助、五代目土佐太夫、大隅太夫の書面、饒連と和合連、小清の慢心、名古屋の社會、彌生太夫、明治の種積貞實、新聲館、また、追悼の會、藝人、義太夫會、別世界の評言、組太夫と松太郎強盗奴、發句、情歌、茶番、三題話、一日千人、告條	

◎投書の心得

△投書にして若し左の諸項に違反するものあらば如何なる名論卓説と雖も採用致さず候。

一 原稿は眞書二十四字詰(句点の下一字を餘す)にて必ず傍訓を附する事。

一 誌上は匿名なるも投書には必ず住所姓名を明記して送る事。

一 原稿の長短に論なく必ず完結のものに限る然らざれば送らざる事。

△投書べ切は毎月廿五日と定め到着の順によりて掲載致し候。

△郵券を封入にて投書の外は如何なる請求あるも原稿は返戻致さず候。

△投書は義太夫雜誌編輯局宛と認められたく候也

社 告

十五日發行

義太夫雜誌 (郵税不用)

一 部 前 金 十 錢

廣 告 一 行 六 錢

總て前金にあらざれば發送せず帯封の朱書なるは前金の切れし印なれば速に送金あれ三回に及は、發送を見合はす但郵便切手代用は一割増○爲替は奥村錠四郎宛にて御送りの事

發 所 行

東京市神田區元柳原町三十九番地
 柳原町卅九番地
 義太夫雜誌社

明治二十八年六月十二日印刷
 年六月十五日發行

發行兼印刷人 奥村錠四郎
 編輯人 岡田廉二

本號の目次

義太夫雜話の本領	肆溪居士
筆浪素樂の妾を拓く	...
偶言	茂句念
寄義太夫雜話	蜻蛉子
上るり十二段 (古曲)	小野通女
韻文	...
竹曲古物博覽會狂歌合(二)	鳴田露香
三好松洛の榮勃	大隅太夫
土佐太夫の事	仁木生
本朝廿四孝の誤謬に就て	ちはる
ふさぎな (小説)	戯太夫
竹本越子	露の家尾花
淨瑠璃評註	蕭の舍主人
三絃歌評	乙朶樓
女義太夫昔の花	住吉亭主人
物輪見立	でれすけ
葦川漁吏に質す	公平子
東紫朗と芝口邊人へ	義狂子
照玉と長廣の評	九尺舍主人
與義太夫節語某嬢書	梅亭主人
女義太夫株式見立	...
大演藝會の評判	...
金澤の通信、名古屋の通信、大演藝會、鳴太夫と蟻玉、後幕皇皇の結果、越子嵐燭を吐く、二行雜報、頭取女義太夫社會を戒む、三行の雜報、文句入情歌	...
一日千人 (本郷側)	小春

稟告

拜啓仕候去る六月の廿九、三十の兩日神田の新聲館に於て本會の第一回大演藝會開設仕候折は御多忙中をもお厭ひなく御來會被成下候段千萬難有奉謝候隨而其節は御存じの通り兩日共多數の御來會にて客留仕候好人氣に候へは自然と混雜の爲め皆々様へ御無禮仕候やも難斗候へ共前陳の次第且つ不馴の輩のみに御座候へは其儀は幾重にも御宥免被成下度乍略儀紙上を以て奉萬謝候

尙此後とも萬一不都合の儀も候は、乍憚御示汲被成下此段一寸添言仕候

七月

義太夫會幹事

御來會諸君

義太夫雜誌 第七號 目錄

〔社説〕

再び義太夫節を聴く人に

〔寄稿〕

桃の屋の説に反す―再び
院本の話(四)

〔文園〕

忠勇よしきの御旗(承前)
娘義太夫
いさ櫻(小説)

〔批評〕

評判箱(朝太夫)
日向島略評
傳評十八番(三ッ大、京珪、小房)

〔雜錄〕

呂太夫の事
稽古本の濫觴
聲曲雜話

〔投書〕

路太夫一座の評判、諷刺、催促申上候、未來記を作る、義太夫三
娛義、榮御前の詞に就て、播磨翁を訪ふ、正誤を見せ、口語りを
評せ、寸鉄、素人八封、藝苑噂聞書、華胥生に問ふ、似而非、羊
肉も賣らざ、新聲箱人形芝居漫評、

〔雜報〕

とぞく
義太夫會録事

月並茶話會、名家の賛成、支部、鳴太夫丈の來信、祝句、人形
芝居の總見物、本會の事、大演藝會の評判記、

〔餘興〕

狂歌・三題嘶、追悼吟集、

戀川舟町
桃の屋主

金波樓主人
頓霞峰堂人

峰の家主人
茂句作念

新呂太夫
南北庵通傳
服霞峰

義太夫會特別廣告

本會は義太夫社會未曾有の大奮發にて毎月二
回極美麗なる後ろ幕を投票及び抽籤にて配當
す其第五回の結果ハ左の如し

當選者

百八十七点

竹本熊梅

百七十三点

竹本小政

百二十三点

相生太夫

九十六点

竹本染之助

八十五点

竹本越子

八十一一点

織太夫

八十一一点

駒太夫

七十点

竹本綾之助

六十八点

竹本土佐玉

三十九点

竹本土佐吉

三十五点

豊澤團登

當籤者

第一百一番

竹本越子

右會員諸君に報告候也

義太夫雜誌 第二卷 第八號 目錄

〔社説〕

〔寄書〕

偶感
路太夫の堀川を聽きて
讀支那征討記

〔文園〕

上るり十二段(終)

〔批評〕

落第先生評
豊竹喜昇軒
傳評十八番(小染、染之助)
評判箱(小清)

〔雜錄〕

與服霞峰
反古まらべ(二)
いろは骨牌
だんくま
藝外の藝(其二)
聲曲雜誌

〔投書〕

義太夫三娛鏡(二)。土佐玉に就て。牛肉見立。評言に就て所思を陳す。竹本新吉樓。小房と土佐玉の比較。淨瑠璃外題辨。初登り豊澤團圓。當世流行外題一覽。字畫しらべ。古句の配當。混沌界なる哉。品評二葉艸。呂昇一座を攝重座に見る。ま又ま。問答二件。

〔雜報〕

奇種雜多。
義太夫會録事

(第四回の大演藝會。津賀太夫丈の入會。第三月並茶話會。大隅太夫丈の上京。俱樂部の設立。小櫻連。寄稿。

〔餘興〕

狂歌。のしみ艸。追悼吟集。

鬼髓
近松太門平

小野通女

微笑
まゆつみ

峰の家筆記

花の家組月
五里霧中樓主人

粹多の樓主人

服蟬霞峰
霞峰字

義太夫會特別廣告

本會の義太夫社會未曾有の大奮發にて毎月二回極美麗なる後ろ幕を投票及び抽籤にて配當す其第七回の結果は左の如し

當選者

百五十五點 豊竹駒太夫

百十二點 竹本土佐玉

百〇九點 竹本小政

九十點 竹本越子

九十六點 竹本組太夫

九十點 豊竹呂久助

九十點 花澤小房

五十八點 豊竹新呂太夫

三十一點 竹本新吉

三十一點 竹本熊梅

抽籤者

四十三番 日本橋 横山 某

右會員諸君に報告候也

義太夫雜誌第九號目次

〔卷首〕

謹賀新年

本誌の述懐

〔社説〕

明治廿九年を迎ふ

〔寄書〕

義太夫

戯曲の類似

院本に於ける所感を述べ併て

支那征討記に及ぶ

〔文園〕

淺草寺觀音緣起(新作淨瑠璃)

凱陣八嶋に就て

凱陣八島(古曲)

〔批評〕

はしがき

竹本綾之助評判

評判箱(津賀太夫、小土佐)

相生太夫の玉三を評し

傳評十八番(團登、清玉)

〔雜錄〕

近松と竹田

反古しらべ(三)

服部霞峰

さ、た、生
桃の屋主人

筆念子

無名子

霞峰
井原西鶴

竹豊居士記

峰の家筆記

茂句念

鹹太夫
南北庵傳

鉦月生

五里霧中樓主人

碧山先生奇行

去年の珍事

藝外の藝(其二)

東京義太夫起原雜記(一)

〔投書〕

時事句評

樂屋三味線

芽生の一摘

男女義太夫十二ヶ月俳句見立

女太夫と淨瑠璃女性見立

義太夫會に注文。女義太夫素人評判記。

節附分類表。乙女義太夫花競。

梅痴居士を訪ふ(支那征討記に就て)。

戲事日程。

〔雜報〕

混同演劇。大坂の長廣。著髻發聲會。

小清の改名。大日本義太夫會錄事。(本會の改稱。

大隅丈の通信。長廣丈の入會。茶話會。第八回の

投票及抽籤。第四回大演藝會)

〔餘興〕

物と附。狂体句。春興澤山。

〔附錄〕

全篇の記事凡て猿を以て満たす。

順理堂主人

粹々子

〇〇

花鳥庵主人

義太夫雜誌第拾號目次

〔社説〕

再び兩陸派に望む

〔寄書〕

淨瑠理中の猥褻文句に就て

都外の一席

獨言

〔文園〕

凱陣八島〔續〕

月並茶話會の席上にて

〔批評〕

品評二葉草〔二〕

傳評十八番〔八重子辯舌〕

竹本組太夫の壺坂を評す

口二枚評

時事句評

〔雜錄〕

長廣の傳

俚歌雜集

寄席の額字

寄席行

東京寄席起原雜記〔二〕

心中傾城に係る院本

稽古本の濫觴に就て

義太夫節のケレン

淨瑠理作者の別號

淨瑠理中の雜節

義太夫の梅見

〔投書園〕

竹本綾之助嬢に忠告す。組太夫の壺坂、義太夫三娘嬢

。短評誌。竹本豊子を評す。戯詠女義太夫。小土佐の盛

衰記評に就て。鶴澤友玉嬢。竹本小清の太十評に就て

再び狸生等に與ふ。談樂齋主人の注文に就て。感服嘶

。一座まどめ評。

〔雜報〕

女義太夫取締法案。歸阪と上京。風流衛生會現はる

。操太夫鶴仙亭に現はれんとす。名跡の相續。新聲

館の人形芝居。生駒太夫再び來る。柳子太夫と久太

夫。修業の爲め下阪。素人義太夫會。義夫太會録事

。義太夫あべこべ會。第九回後幕投票の結果。第五

大演藝會。竹本住勝一座の通信。交詢三件

〔餘興〕

口上茶番。義太夫文句取俳句及び情歌。竹曲物博覽會狂歌合

辨香醉史

筑越庵主人

深古隱士

愛號子

二竹道人

南北庵通傳

井原西鶴

露

立花家主人

戲太夫
南北庵

五澤軒主人

ものこ

茂句念

激笑

雙筆
筆
笠

茂句念

梅痴居士

花鳥庵主人

義太夫雜誌第拾壹號目次

〔社説〕

歴史的淨瑠璃の新作を促す

〔寄書〕

増補淨瑠璃

稽古本濫觴説に就て

ひとりおど

戯曲の類似 (續)

俚歌俗謡に就て

〔批評〕

傳評十八番 (小東玉、小竹)

新聲館人形芝居略評

口二枚評 (一)

品評二葉草 (三)

時事句評

〔雜錄〕

俚歌雜集 (二)

半二の妙文句

故鶴澤友次郎の一夕話

筆の儘

次三十一谷入先生韻

淨瑠璃作者の別號

神垣主人

乙 朶 樓

愛 號 子

〔投書函〕

二竹道人に望む。伊賀越沼津の段の文句に就て。竹本鱗の支那征討記を評す。義太夫百花對。質問一則。矯風の議に就き。節附分類表補遺。淨瑠璃對さくら。乙女義太夫一句評。義太夫社會に望む。一對得意の語物。小磯が原の淨瑠璃に就て。竹本操太夫の合邦を評す。交詢一件

〔雜報〕

新聲館の人形芝居、操太夫が得意の語物、相生太夫留京に決す、小東玉の三味線、來往交替、旅興行の女太夫、土佐玉の地方行、岡登齋の大催、名古屋、神奈川の演藝會、寸評寸語通信、大日本義太夫會録事くさくさ

〔餘興〕

狂歌(有名藝人)○俳句(淨瑠璃結び)○送別歌句○意氣の二節(淨るり文句入)其他くさくさ

雙筆 雙笠 雙環 雙奴子
瓣香 醉隱
佩絃 齋

戲太夫 南北
茂句 念
も の じ
立花家主人
茂句 念

筆 念 子
稻 涯 漁 史
無 言 翁
桃 の 屋 主 人
楊 洲 鶴 彦

○義太夫雜誌第拾貳號目次

〔社 説〕

義太夫界の既往を叙し併せて前途に望む

〔寄 書〕

増補淨瑠璃に就て

ひとりおと

〔文 園〕

淺草寺觀音緣記〔新作淨瑠璃〕

〔批 評〕

傳評十八番〔熊梅・花友〕

短評五人男

口二枚評 (三)

曲界時事句評

〔雜 録〕

俚歌雜集 (三)

染摸様妹春門松の院本に就て

次韻

國性爺合戰の序文

淨瑠璃古跡めぐり

竹豊名曲集

故野澤重五郎

淨瑠璃作者の別號 (三)

愛 號 子

筆の儘 (三)

神垣 主人

〔投書函〕

朝太夫の日吉丸三段目・再び大日本義太夫會へ。

照玉一座の評判・姥さくら・聽女義太夫・義太夫

三誤籤・豊澤團鶴・一幸の毛谷村六助・綾之助の

昔噺・訓狐・戲曲類似を讀て・得意の語物・語樂

齋の問に就て・ほたへの義・交詢三件

〔雜 報〕

新聲館の四月興行・寄席の株式會社・兩睦派席亭

の調和・小緑と氏八・稻荷座の四月興行・豊澤松

太郎・調太夫吹抜に出・和合連の興行・大坂通信

花助勇助と改む・豊吉の病氣全快・新橋拍子の総

見・語樂會・隨感隨記・大日本義太夫會錄事〔第

五回演藝會評判記其他くさくさ〕

〔餘 興〕

竹曲古物博覽會狂歌合・狂詩・課題俳句・意氣の一節その他くさくさ

雙筆 瑠璃 子奴
稻 涯 漁 史
瓣 香 醉 隱
昌 南 居 士
茂 句 堂
絳 念

筆 念 子
無 言 翁
無 名 子

南 戲 北 太 夫 庵
嗜 曲 居 士
も の 字
茂 句 念

義太夫雜誌第拾三號目次

〔社 説〕

書感

〔文 園〕

諸藝蓋音器

讀東京義太夫評判記

曲界時吟

〔批 評〕

續短評五人男

新聲館零評

調太夫の忠臣藏四段目

口二枚評(四)

三味線五人娘

〔雜 録〕

俚歌雜集(四)

竹豊名曲集(續)

故播磨椽の口傳

手向草

通 傳 生

花澤小房の傳に就て

筆の儘(三)

可味垣主人

〔投 書 函〕

眞打看牌に就き。作者別號の補遺。ほたへの本義。沼津の段平作の文句に就て。子に叶はぬ云々に就て。再び語樂齋主人の注文に就て。大日本義太夫會員に望む。題しらす。名文句。義太夫雜誌の再興一周年を祝す。蝶花形八ッ目に就て。淨瑠璃對さくらの補遺。娘義太夫と卷煙草

〔雜 報〕

義太夫席亭の交渉。新聲館の六月興行。操太夫改名す。坂地文樂座の當狂言。鳥尾氏の熱心。竹本清吉。目下旅興行の女義太夫。義太夫協和會。語樂會第一回演藝會。鶴澤豐子。寸筆寸語。義太夫會録事數件

〔餘 興〕

課題狂歌。俳句。意氣の一節其他くさく

双 環 子
筆 笠 奴

梅 東 庵
彩花園江春
茂 句 念
嗜曲居士
茂 句 念
耳の家主
も の 字
半疊庵主人

故鶴澤重五郎
故順四軒

義太夫雜誌第拾四號目次

〔社 說〕

淨瑠璃三味線樂譜及適用脚本に就て

〔文 園〕

諸藝蓄音器(續)

凱陣八島(十號の續)

曲界時吟

〔寄 書〕

義太夫曲の助六

耳の垢

〔批 評〕

續々短評五人男

新聲館略評

三味線五人娘(續)

口二枚評(五)

〔雜 錄〕

拈華雜話

次韻

片言錄

故播磨椽の口傳(承前)

竹豊名曲集(承前)

〔投書函〕

淨瑠璃百話。三生は東京に於る女の團平なるか。

調太夫の沼津の段を評す。子に叶はぬ云々の義。

當今女義太夫語物競べ。姥櫻短評。再興一週年の

祝句。淨瑠璃一對外題。交詢。

〔雜 報〕

新聲館の益狂言。近松の碑。新看牌の眞打三人。寄

席の木戸錢。稽荷座の株式組織。故駒之助の追善

豊竹呂京。寸筆寸語。義太夫會録事。協和會藝評

〔餘 興〕

竹曲古物博覽會狂歌合。俳句。三題斷。意氣一節

七文字屋微笑

彩花園江春

蟬々子

故順四軒

故鶴澤重五郎

義太夫雜誌第拾五號目次

〔社説〕

再び歴史的淨瑠璃の新作を促す

〔文園〕

海戰譽勝四(新作淨瑠璃)

金波樓主人

諸藝善音器(續)

梅東菴

曲界時論

茂句念

〔寄書〕

淨瑠璃雜談(太十に就て)

浪花の浦人

女義太夫と俳諧家

筆念子

〔批評〕

小清の藝評

島の屋千鳥

宮松亭義捐義太夫略評

戯太夫

素行の先代萩政岡

みどり樓主人

〔雜錄〕

如是錄

蟬々子

故播磨様の口傳(續)

故順四軒

竹豊名曲集(續)

故鶴澤重五郎

佐倉宗吾郎の辭狀

竹豊居士

寄席起原雜記(三)

花鳥菴主人

〔投書函〕

長骨片眼君に質す。女義太夫三絃家に就て。好聲

子君に答ふ。鶴澤勇繼。淨瑠璃作者別號追補。男

女義太夫一字評。近時女義太夫品行如何。交詢

〔雜報〕

義太夫の義捐興行。故友次郎の退善。新聲館の當

狂言。竹本祖磨太夫。文樂稻荷兩座の狂言。語樂

會第三回。桐竹紋十郎上京の噂。寸筆寸語。大日

本義太夫會録事種々及び藝評

〔餘興〕

竹曲古物博覽會狂歌合。俳句。三題噺。意氣の一

節。忠臣藏冠句其他くさく

義太夫雜誌第拾六號目次

謹で讀者諸君に告ぐ

〔社説〕

素人義太夫を論ず

〔寄書〕

婦人演藝者獎勵に就て

淨瑠理雜談(妹脊山に就て)

義太夫曲の助六

〔文園〕

菊の露(完)

狂歌

曲界時吟

〔批評〕

竹本長廣

新聲館略評

艶受六家撰

短評もたれ揃ひ

一筆評判記

〔雜録〕

但歌雜集(五)

S O 生

桃の屋主人

浪花の浦人

肝達子

おちば

茂句念

もの字

島の屋千鳥

狐涯生

長耳坊

贅仙居士

かみ垣主人

故播磨椽口傳補遺

放情自娛

淨瑠理の三病

美好太夫の逸事

作者の四天王及び三傑

反古しらべ

寄席起原雜記

〔投書園〕

近頃の義太夫界寸評。義太夫語十戒。小巴津と小豊後。發聲會略評。竹内生に申す。浮舟君と問ふ。妹脊川の唄と就て。祝章。評判記に就て。交詢。

〔雜報〕

織太夫と兵吉。和佐三絃彈と成。芳三郎の改名。呂昇一座。長廣の歸坂。文藝株式會社。小さの太夫。友之助の一行。披露會。和合連。四光の熱心。新聲館。天狗連の組織。三光亭。勝造の絃會。越子の旅行。濱次と清昇。錦の質店。

〔餘興〕

俳句。情歌竹曲の一節。川柳。胸調べ。八景見立。物輪附。其他くさくさ。

某

竹豊 居士

花の家鋸月

秋芳 道人

探古 生

二竹 道人

花鳥庵主人

義太夫雜誌第拾八號目次

●●●●●
寫眞畫(竹本相生太夫・竹本鯉之助)

〔社 説〕

義太夫演藝者の地位を論じて現今諸新聞紙上の義太夫記事に及ぶ

〔寄 書〕

滑稽戯曲の作に就て(二)

淨瑠璃雜談(四)

淺草公園の人形

〔文 園〕

曠影鷄林の一聲(續)

曲界時陰

狂歌

〔批 評〕

竹本相生太夫

短評もたれ揃(二)

艶受六家撰(續)

一筆評判記(二)

〔雜 録〕

筆の儘(五)

竹本鯉之助の事
古代作者の格言

竹本茶里太夫の昔話

大石良雄自畫の盃

起原雜記(五)

〔投書函〕

源平布引瀧に就て。語樂齋の問に答ふ。聽客十戒。
芝の拙者君へ。都保美連。靜岡の景况。小大嬢の辨
慶使に就て。流行見立。交詢二件

〔雜 報〕

大教院と綾瀨太夫。稻荷座の狂言。越谷の改名。
小富の三味。津賀太夫大磯に行。岡太夫。鱗。美鳥兩
連合併。まがし連。坂地に需む。紋左衛門と播磨の
事。さらへ。松本の景况。地方の女太夫。友之助永
之助。演藝會。有馬の景况。呂昇一座。名古屋の藝
妓連。新作。小緑。新刊。瑣報。寸筆。十六日以後
の寄席。大日本義太夫會錄事(批評)

〔餘 興〕

聲手書口合。俳句。見立。川柳。百情歌。物輪附竹
田一節。素人連名一覽その他くさく

昇瀧子

茂の字生

探古生

花鳥菱主人

〔寫眞畫〕

豊竹駒太夫。豊竹小富太夫。竹本小住

〔社説〕

義太夫演藝者の地位を論じて現今諸新聞紙上の義太夫記事に及ぶ

〔寄書〕

演藝家に望む

淨瑠理雜談(承前)

〔新作〕

金龍山法碑

曠影鷄林廻一聲(續)

〔文園〕

曲界時吟

淨瑠理歌仙

鰻谷の阿妻

〔評判〕

駒太夫と小富太夫

一二三の壺坂寺

竹本小住

〔雜錄〕

短評もたれ揃(三)
竹本政太夫の諭告書

六代目綱太夫の昔話

皮肉叢談(一)

〔投書函〕

相生太夫の経歴に就て、薩摩太夫に物申さん、もたれ揃三ッ大評に就て、緑太夫の辨慶、語物改良論、批評家諸君に申す、播重席短評、女義太夫と氷水、何れ菖蒲ぞ、長廣一座評、歌亭君の答に就て、交詢二件、

〔雜報〕

松太郎の歸坂、祖太夫、發音會、改名俳句、染太夫の名跡、坂地素人會、大坂の天狗連、織と小富の合併、呂昇一座、新吉の奮發、組住の一行、織太夫、和國の看牌、花太夫の嗣名、一九の旅行、秋田の義太夫况、鱗連の月並、協和會、素人連組織、播磨の記事、紅葉山人、越子の競争、出稼中の男女太夫、投書一篇、鼻くらべ、市村座、曲界瑣報、番組

〔餘興〕

狂歌、俳句、竹曲の一節、一口文句、戀の興、物輪、百情歌、狂句、笑話、太十文句見立、其他くさく

筆笠生
穴目家主人

和國翁章句
野澤 吉三
初雪菴主人
卒塔婆生
二竹 道人
島の屋千鳥
評判子
長耳坊
雜錄子

義太夫雜誌第貳拾號目錄

〔寫眞〕竹本織太夫、豊澤兵吉、竹本綾之助

〔社説〕

義太夫演藝者の地位を論じて現今諸新聞紙の義太夫記事よ及ぶ

〔寄書〕

演藝家に望む

〔新作〕

金龍山法碑 (續)

曠影鷄林迺一聲 (續)

〔文園〕

狂鈴森曲

歌仙塵みの巻

忠臣蔵俳句

曲界時吟

〔評判〕

冊子の三影(織太夫、兵吉、綾之助)評

竹本重八の熊谷陣屋

第七回演藝會略評

同初日評判記

同三日目評

同四日目評

寺子屋文句見立評

桃の家主人

豊竹和國翁章句
野澤吉三

傳好生藤園
合南市仙作

京南市仙
茂句念庵
初雪

雀連坊
島千鳥

奇仙放史
鶴の家静遊

空中居静
十毛舎主人

互撰互評あはせ佳雅美(二)

〔雜録〕

忠臣蔵の文句に就て

故鶴澤友治郎の三味線歌

三味線本調子の原因

〔投書函〕

文句の扱はしよりに就て、竹本重八の千代萩、竹本京子太夫の行儀に就き、呂京の辨慶上使に就て、妖の論を預りに付、竹本重八、竹本濱之助、京子嬢に代て半通君に與ふ、

〔雜報〕

天神の奉額、越路の名跡、組朝の合併、岡太夫一座、富竹亭の景况、阿蘇千葉に赴く、綾一死す、庄次郎逝く、一尤と文之助、鶴司の改名、駒代素行の弟子と成、小住の一行、文樂座の狂言、呂昇一座、義太夫の鑑札、合併興行、大隅の一行、演藝會の番組、土佐翁の一世一代、津波の太夫、日本橋連再興、天狗連、曲界瑣報、義太夫席顔觸、

〔餘興〕

三題斷、雜しぶし、柳文句見立、虫干、笠附、戀の奥、卅六花撰、一口咄二種、新題考物、

〔課題〕

狂歌、俳句、狂句、ど、逸其他くさく

みす、家お輕
自稱庵半通

竹豊居士

無言翁抄錄

雜録子

野澤吉三

義太夫雜誌第貳拾貳號目錄

〔寫眞〕

豊竹岡太夫、鶴澤寛三郎、竹本越子

〔社説〕

女義太夫風俗論 (貳)

〔寄書〕

戯曲壺坂寺の劇

〔新作〕

曦影鷄林廻一聲 (續)

〔文園〕

詩(小豊後新吉京子)

曲界時陰

狂歌(茶理太夫を悼む)

〔評判〕

本誌の三寫眞(岡太夫、寛三郎、越子)

春玉一座

あゝこゝ會を聴く

〔雜録〕

一人二話

尺牘一則

故播磨椽口傳拾遺(續)

人形斷

東武士寫眞美譽を讀て

茂の字生
五鈴堂主人

〔投書〕

函春玉の門人評、質疑一則、青萍雜詩の都記事、土佐玉嬢に與ふ、京子嬢の評に就て、坂地女義太夫六佳撰、おたかく女史に答ふ、諸嬢へ贈物、春玉の太十評、物輪附、物識庫、交詢

〔雜報〕

祖先例祭の景况、文樂稻荷の狂言、男太夫の合評、仲次郎の名殘會、竹本小染、小豊後と素若と三福、竹本花太夫、茶里太夫頓死す、豊助の披露會、春玉一座、愛之助歸京、長廣一行、改名駒太夫と小富、都連組織、王子の浚へ、義太夫統計、大坂の通信、曲界瑣報、義太夫席、素人連名

〔餘興〕

地獄界義太夫景况(合作)彼岸詣(素朴)贈金(骨成)一と口文句(靜玉)最負口(素朴)謎々(ちくゑ)考物(歌亭、靜遊)同解當同人名

〔課題〕

狂歌、俳句、狂句、どゞ一くさく

野澤 吉三

桃の屋主人

病 鶴 生

茂 句 念

自然庵素朴

評 判 子

鳥 千 鳥

曲 豆 生

竹豊居士

粹多樂史

服霞峯

雜録子抄録

義太夫雜誌第貳拾參號目次

〔寫眞〕

竹本朝太夫。野澤吉彌。竹本土佐玉。

〔社説〕

女義太夫風俗論(三)……………服裝論

〔寄書〕

東武士寫眞美譽略評

戯曲の人名に就て

大坂船中某氏の忠告に答ふ

市仙大人に申す

〔新作〕

曠影鷄林廼一聲(續)

〔文園〕

詩。狂歌

〔評判〕

本誌冠頭の三宵影

竹本重八一座

綾之助一座の人氣

大演藝會評判記

合	好	島	合	五	桃病	野	浪	桃	桃
評	曲	千	編	鈴	鶴	澤	花	の	の
生	鳥	鳥	人	堂	の	吉	の	浦	屋
評	生	鳥	人	主	鶴	三	浦	入	主
				人	屋		人	人	人

〔雜錄〕

政太夫の遺墨

一越斷金

そゝろ嘶(二)

〔投書函〕

春玉の太十評に就て。綠太夫を聽て。本調子の原

因に就て。竹本京子。曲界所感。昨の小豊後今の

政子。相生の一座。斷食と絶食。交詢。物議庫▲

ほたへの解▲丈の解▲呼子鳥の質問

〔雜報〕

稻荷座狂言。政太夫逝く。大坂通信。二代目住之

助。三福と素若。兼花の一座限り。京子。横濱の

義太夫席。温習會。鶴壽連。義太夫席案内。東京

素人連名一覽。

〔餘興〕

音聞皆空事。一と口文句。切前語六佳撰。考物新

題。同解當

〔課題〕

狂歌。俳句。竹曲の一節。狂句くさく

雜錄子抄錄
半疊庵
茂の字生

義太夫雜誌第二十四號目次

〔寫眞〕

竹本祖太夫。豊澤新兵衛。竹本新吉。

〔社説〕

女義太夫風俗論(四) 服裝の續

〔寄書〕

竹曲の趨勢及び價值
ほたへの解釋を評す

〔新作〕

臆影鷄林廻一聲(續)

〔文園〕

詩(清玉、呂景、小大)

曲界時論

戯曲狂歌(忠臣藏)

興歌二首

〔評判〕

本誌初葉の三寫影(祖太夫新兵衛、新吉)
聽柳子太夫偶感

〔雜錄〕

俚歌雜集(六)

三絃本調子の原因に就き阿屋杉氏に答ふ

淨瑠理古跡案内
そゝろ話(一)

桃の屋主人
浪花の浦人

野澤 吉三

病鶴生
茂句念
浪華の浦人
自然庵素朴

評判子
竹豊居士

五鈴堂主人

野澤 吉三
雜錄 子
茂の字生

〔投書函〕

小土佐一座(好曲生)櫻所君の說に就き(いろは)語物の事(田舎人)太十評の注意に就き(靜遊)偶感(いろは)小政一座評(九年坊)竹本三光(涙纒生)澗江の景と坂地女義(舟子)又快ならずや(病鶴生)團鼻嬢(橡而生)曲界六感(いろは)太十旅僧の評言に就き(天賀咲之助)物識庫……解答質疑五件、交詢

〔雜報〕

織太夫一行、相生横濱に赴く、駒と和國、小富歸坂す、稻荷座の狂言、さの高尾一行、大坂通信、鳴瀬の名弘、故若濱の追善、旅稼の女太夫、源太夫一座、長瀬の廣島行、小彌儀の出席、立花亭主人逝く、鶴壽連、呂昇の消息、語聲會、第十回演藝會、横濱の素人會、曲界瑣報、義太夫席案内、三福看版を擧ぐ、政子の復名其他數件

〔課題〕

狂歌(桃の屋大人判)俳句(社撰)狂句(乙采點)

〔餘興〕

落語(素朴)一口笑話(靜遊)落語(あばらや)茶有卦(素朴)百情歌(梅河)二口洒落(愛亭)咒秘傳(靜雄)考物(合案)情一節(合作)其他くさくさ
社告 種々廣告いろく

義大夫雜誌第貳拾五號目次

〔寫眞〕
竹本組太夫、竹本小彌儀、豊竹小豊後

〔社説〕

明治三十年の義大夫界を送る

〔寄書〕

織曲界金融と算法

加賀見山の院本に就て

朝顔日記

〔文園〕

詩〔贈堂播先生歌、團登〕

織曲狂歌

歌仙表六章〔仙代萩の巻〕

〔新作〕

曠影鷄林廻一疊〔續〕

〔評判〕

誌冠の三省影〔組太夫、小彌儀小豊後〕

小政一座

第十回演藝會評判記

都保美連の竹本房子

〔雜錄〕

伊藤理古跡考

茂文居士

桃の屋主人

花の家鈕月

浪華の浦人

病鶴生

都鳥社人

や哉山人

野澤吉三

評判子

島筆千鳥

島筆千鳥

緑島筆千鳥

故事二三

〔投書函〕

語物に就て附統計表、南窓獨語、本調子原因の答
よ就き、太十旅僧評の注告につき、竹界小言、わ
りの儘、百耳百評（にくまれ口、竹本久吉の嘉平
次住家、土佐玉一座、竹籬の七妍人、所感）物議
庫（野七里山七里の解、あんだらくさいの解、質
問のけば長者、小磯原に就き、ほたへの評よ就

〔雜報〕

湯島天神の奉額、織太夫歸京、新聲館の興行、人
形使足を断つ、文樂座の狂言、永之助の改名、興
行の統計、横濱の演藝會、二代目光の披露、鱗連
の月番、共和連、大ろじの忘年會、大坂通信、地
方の女太夫、素行の一座、納さらへ、十一回演藝
會、置土産、曲界瑣報、義太夫席案内、素人連名
一覽、横濱の鶴遊連、濱之助と若之助

〔餘興〕

寫眞 演藝家投票名案

別録 曲見立蕎麥

大功記十段目福引目錄

義太夫富貴世勢

笑話 富貴世勢

菊 露 生

自然庵素朴

同 じ く

松廼家漁夫

自然庵素朴

義太夫雜誌第貳拾六號目錄

〔寫眞〕

野澤語助。鶴澤清六。豊竹磯太夫。野澤語八。

謹賀新年

奥村錠四郎
内田茂文

〔社説〕

明治三十一年一月の
義太夫雜誌に筆す

茂文居士

〔寄書〕

新聲館初興行所感

筆はじめ

又々本調子の原因に就て

桃の屋主人

浪花の浦人

野澤吉三

〔文園〕

歌仙(門松の巻)

祝吟(狂歌、俳句)

春の寄席(狂歌)

〔新作〕

曠影鷄林廼一聲(續)

〔評判〕

誌頭の四肖像

新聲館人形芝居

〔雜錄〕

淨瑠璃古跡考(二)

伊藤川梅柳

評判子

茂句念

野澤吉三

茂句念
一、鱗彦、いろは
自然庵素朴

淨瑠璃古跡の尻馬
座敷淨瑠璃の失敗
目出度外題よせ

仙鳥千鳥
雜錄子

〔投書函〕

浪花の浦人先生に復す。綾瀬師の忠四に就て。廿三號戯曲人名に就ての質疑。太十の旅僧につき。廿五號を讀て

〔物識庫〕

退けは長者の解。野くれ山くれの文句に付き。圖に乘て答ふ。再び浦人先生に申す。おしやらくの意義。替古所案内。素人連名表

〔百耳百評〕

四字評語。小政嬢の痰咳に就て。文樂座摘粹。稻荷座摘粹。筆はじめ評。都保美連の三之助評。第二流的男太夫評判。清之助と播磨磨。

〔雜報〕

新聲館一月狂言。織太夫一座長太夫謙豫太夫の改名。播磨一座の改名。文樂稻荷の初興行。小富文樂に出勤す。大坂通信。芳原連。梅之助清好のさらへ。三連合併の宴會。一二の藝者屋開業。小田原素人連。名古屋よ於るデン况。風評談片。小政次の名義。小淺と越子。伊達太夫。小彌儀の歸坂投票の結果。席亭案内。第十一回演藝會番組。曲界瑣報。

〔餘興〕

狂歌(梅東隱士撰)。俳句(不外菴閣)

〔附錄〕

五ツ組春の重詰(自然菴素朴)俳句狂歌。地方の淨曲を聽く(病鶴生)

義太夫雜誌第廿七號目次

〔寫眞〕

竹本柳太夫、竹本京枝、竹本三福、

〔社説〕

義太夫社界師弟間の矯風策に就て

〔寄書〕

大演藝會に就て

戯曲評釋談

又々本調子に就て

仙月大人に申す

合作淨瑠璃に就て

〔新作〕

曠影鷄林廻一聲(續)

〔文園〕

贈鬢先生、七絶、狂歌、

〔評判〕

巻初の三影(柳太夫、京枝、三福)

大演藝會評判記

稻荷座摘萃

〔雜録〕

そいろ話(三)

阿波十の住宅

淨瑠璃故事拾録

〔投書園〕

本調子原因に就て(あや杉) 旭影を讀て(舟子) 若手真打に望む(九年坊) 京子に告ぐ(惚井) 本調子に就て(音樂生)

〔百耳百評〕

第二流的男太夫評判(咲之助) 京子と兼花(花亭) 綾太郎嬢(私欲仁) 浪花人氣三幅對(綠小史)

〔物識庫〕

前號おしやらくの解(如月、六花、楠露、戀字、雀連)

〔雜報〕

新聲館の二月興行、薩摩太夫一座、伊達の上京、織太夫の横須賀行、稻荷座の狂言、上京と下坂、淺草の千長、愛之助の歸京、豊助の一行、巴玉逝く、大坂通信、名古屋通信、犬山のデン况、浪八逝く、昇太夫の吟聲、やまと新聞の投票、鱗連の新年會、筑後太夫逝く、都鳥の歸坂、素人連名一覽、風教音曲會、大坂女義太夫一覽表、曲界瑣報、席亭案内

〔餘興〕

狂歌(竹の屋大人判) 七福神寶入船(自然庵素朴) 物輪附(や哉山人、政一) 一と口文句(靜亭) 淨瑠璃傾城都々逸その他くさく

義太夫雜誌第貳拾九號目次

〔寫眞〕

豊竹和國太、夫竹本重八、竹本土佐尾、

〔社説〕

新聞紙の義太夫投票に就て

〔寄書〕

悼豊澤園平

戯曲評釋(續)

〔新作〕

曠影鷄林廻一聲(續)

〔文園〕

詩(駒澤治郎左衛門)

哀悼(俳句、狂歌)

〔評判〕

誌肇の三影(和國太夫、重八、土佐尾)評

〔雜錄〕

近江源氏先陣館の一節

浄瑠璃故事拾録(三)

〔投書函〕

偶感(莞爾)、漫言(惚井生)、病鶴君に與ふ(梅竹生)

〔百耳百評〕

相生一座の忠藏評(丹々堂痴人)愛之助の太十(や

哉山人)坂地寶生館(醉夢生)小川亭花形評(花亭)

越子の合邦(金鳳生)中島卷老軒(綠小史)綾之助一

座評(私欲仁)佳之助の辨慶上使(花亭)

〔物識庫〕

質問(みたくしの義、糠もくづるゝの義)

〔案内〕

替古屋、素人連名一覽、作者幕所、十六日以後の席亭

〔雜報〕

稻荷座の狂言、園平逝く、大隅の決心、園平の葬儀

園平の志度寺、狂詩、組合の祝賀、清六の還曆會

兵吉喜昇軒の會、竹本清吉没す、清吉の遺娘、新

聞の投票熱、小政次の廢業、大坂通信、譽名刀、地

方興行の女義太夫、呂昇と長廣、小清の切前、なり

座の三味線引、越尾の改名、活動と女義、曲界瑣報

〔餘興〕

梅柳春彩色(素朴)人物論(仙月)替唄(や哉)數學と

女義(や哉)其他歌俳くさく

〔課題〕
狂歌、俳句、狂句、竹曲の一諷

義太夫雜誌第參拾號目次

〔寫眞〕

竹本綠太夫、鶴澤新造、豊竹呂昇、

〔社説〕

本誌再興發刊の三周年

男女義太夫演藝者に告ぐ

〔寄書〕

大演藝會に就て(其三)

〔文園〕

詩二絶(病鶴) 追悼歌仙(吉三)

戯調歌(素朴) 追悼吟集

〔新作〕

曠影鷄林廼一聲(續)

〔評判〕

本誌初掲の三影(綠新造 呂昇)

愛之助を聽く

名古屋に於る長廣の壺阪

〔雜錄〕

俚歌雜集(七)

代義經眞實呈仙月書

淨瑠璃穿索錄(二)

故事拾錄(四)

ろいろ話(五)

〔物識庫〕

桃の屋主人

悼團平翁(舟町)

野澤吉三

評判子

竹豊居士

花の家鈕月

五鈴堂主人

戀字坊

楠露狂史

茂文居士

くしの苦思(浪花の浦人) 其他三件

〔投書函〕

私見(紅緑子) 梅竹君に答ふ(病鶴) 仙月君に與

ふ(排雲) 曲界所感(梅竹) 淨曲笑談(菜畑) 梅

竹君の病鶴生に與る書を讀む(紅緑子) 投票募集

(みなかうど)

〔百耳百評〕

第二流的男太夫評判(甘賀咲之助) 土佐玉(莞爾

木葉) 綾太郎(梅竹) 阪地女義總まくり(予太夫)

〔雜報〕

風紀上の諭告、三業組合集會、女太夫の集會、鶴

淺の歸坂、綾之助の廢業、扇入説諭を受く、天満

宮の奉願、故團平の彈し太夫、文樂座の狂言、鶴

壽連の大會、松本亭の素人興行、協和會、大坂通

信、巴玉の追善會、故團平の逸事、地方興行の男

女太夫、松山の師匠規約、小緑の歸京、曲界瑣報、

〔餘興〕

名跡案内(素朴) 五月幟並諸道具(江戸子) 魚族

義太夫(素朴) 一ト口話(つかさ)

〔課題〕

狂歌(弓の屋判) 俳句(湖月撰) 狂句(素朴撰)

竹曲の一颯(娛見撰) 語呂(筆野閑) 其他くさく

義太夫雜誌第三拾壹號目次

〔寫眞〕

竹本峯太夫、豊澤團登、豊竹呂京、

〔社説〕

浄瑠璃界雜感

〔寄書〕

竹曲界の弊習

〔新作〕

曠影鷄林廻一聲(續)

心中知死期の雙輪(完)

〔文園〕

詩、狂歌、俳句、曲界百首、魚族義太夫

〔評判〕

本誌卷頭の三影

大演藝會評判記

文樂、稻荷の斑評

〔雜錄〕

そいろ話(五)

浄瑠璃故事拾録(六)

紅緑子の御高見

〔物織庫〕

所存一二(臚の家鳩松)銀座小僧さん(下谷丁種)

〔案内〕

素人連名一覽表、替古所案内、

〔投書函〕

餞綾之助辭(花亭)腕前と三味(涙縷)堂摺連と美太

夫(木葉)藝評に就て(莞爾)人物論(仙月)答書(梅

竹)蛙の涙草堂)

〔百耳百評〕

竹本雲龍太夫(評太夫)朝太夫の堀川(花散里人)片

々(晚翠生)柳子太夫(梅竹生)新潟の義太夫藝妓

(花野春之助)

〔雜報〕

三業組合の配附書、取消、稻荷の狂言、多門太夫

の出席、阿蘇一座、林太夫の會、第十三回大演藝會、

文樂座狂言、春玉一座、大造の熱心、大坂通信、地方

興行女義太夫、女太夫の出席、友之助の出席、豊子

の祝ひ、當撰祝演會、又義太夫席案内、

〔餘興〕

素人義太夫(自然庵)義太夫菓子(かをる)滑稽二ツ

巴(猫亭小判)課題(狂歌、俳句、狂句、語呂、其他く

さく)

義太夫雜誌第三拾貳號目次

〔寫眞〕 豊竹鏡太夫、鶴澤傳四、竹本京子、

〔社説〕 曲界雜影

〔寄書〕 操人形の類別

〔文閣〕 詩（小巴津清枝）

曲界百首、狂歌孟蘭盆

〔評判〕 誌頭の三影（鏡傳四京子）

〔新作〕 竹本多門太夫

〔雜錄〕 曠影鷄林廼一聲（續）

そいろ話（七）

矢口の新文句

淨瑠璃故事拾録（六）

〔物識庫〕 茂文居士を訪ふ

淨瑠璃中の順禮札所

〔案内〕 鐵札金札の解
七度結ん姉と成る云々の質問
喋花形の詩に就て
馨古所。素人連名一覽。寫眞掲載號分

桃の屋主人

病鶴生

自然菴素朴

評判子

筆笠隱者

戯太夫

野澤吉三

茂文居士

後峰散人

滑稽文坊

病鶴生

雀連放史

〔投書函〕

抜語に就て（のんき坊）、先陣館に就て（絃緑子）、
雜感（莞爾）、桃の屋主人に申す（蒨露）藝評に就て
（木葉）、團平十八番藝題盡（晚翠）、

〔百耳百評〕

竹本絹太夫（評太夫）綾瀬太夫（莞爾）小政一座評
（閑日月菴）土佐花（好段子）榮壽亭短評（壽々女）大
ろじの素人會（梅竹 實生館略評（みどり）三幅對
（舟子）長廣と廣勝（淚纒）批評片々（二九きみ）

〔雜報〕

門左衛門の碑、喜昇軒、文樂の狂言、文樂の三味
線引、調太夫没す、さらへ種々、大ろじの興行、
多門太夫の事、新聲館と播磨、愛之助の迷惑、大
坂通信、彌太夫の談話、小縁看牌を擧ぐ、上州地
方の投票募集、十六日以後の義太夫席

〔餘興〕

夢枕（素朴）全躰耻 靜笑堂）外題語呂（歌亭）一と口
（遊升）笑話共進會（合作）五色短冊（自然菴）考物解
當及び新題等くさく

〔課題〕

狂歌。俳句。狂句。都々逸。語呂等澤山

義太夫雜誌第三拾三號目次

〔寫眞〕

竹本殿太夫、竹澤龍造、竹本兼花、

〔社説〕

曲界時事觀 (其一)

〔寄書〕

曲界漫話(古跡巡り)

戯曲を成就せしむる自然界

〔文園〕

七草見立吟(俳句)

寄月見義太夫(狂歌)

〔新作〕

曠影鷄林廻一聲(續)

〔評判〕

卷頭の三影(殿太夫、龍造、兼花)

美太夫一座

淨瑠璃相撲(阿蘇越)

〔雜錄〕

そいろ話(八)

去嫌七箇の辨

淨瑠璃故事拾録(七)

解當一件、質問四件

〔案内〕

警古所案内。警古所めぐり。連名一覽。其他

〔投書函〕

抜語に就て(木葉)娘太夫に告ぐ(莞爾)竹本新吉嬢

(圓山野人)都新聞の記事に就て(梅竹)野天義太夫

(傳道院小僧)

〔百耳百評〕

和國太夫の小磯原(評々居士)新吉一座評(木葉)小

政一座の妹脊山(糸成)暑中見舞詞(去太夫)豊竹初

緑(藝笑)

〔雜報〕

相生太夫の一行。綾永太夫の壽碑。朝太夫一座。

鏝の下阪。小清横濱に赴く。素行の松井田行。春

玉一座。京子看牌を上ぐ。新吉の斷髮に就て。弦

手の避暑。金龍亭の興行。在地方の女太夫。多門

太夫。兼花亂暴に逢ふ。大演藝會。大坂通信。葉

書アン報。梅玉濱之助を引く。呂京一座。義太夫

席案内。

〔餘興〕

義曲二〇加(素朴)廓の曙(そなれ家)笑話共進會(

合作)面皮千枚張(百笙)芋出語呂(素朴)席亭

語呂(紋駄)

〔課題〕

狂歌(網の屋判)。俳句(九年坊撰)狂句(黄金撰)竹

曲の一諷(一鱗評)語呂(歌亭撰)其他くさくさ

義太夫雜誌第三拾四號目次

〔寫眞〕

竹本絹太夫、竹本住之助、豊竹駒子、

〔社説〕

曲界時事觀(二)

〔寄書〕

曲界漫話(古跡巡リ)

院本中の小唄

〔文園〕

狂歌

秋に寄する曲界時吟

〔評判〕

冊初の三影(絹太夫住之助、駒子)

東玉の教興寺

〔新作〕

曠影鷄林廻一聲

〔雜錄〕

そいろ話(九)

淨瑠璃故事拾録(鷄飼)

〔物識庫〕

豚部の解
姻袖鑑宗玄の詞に就て

〔案内〕

義太夫替古所、素人連名一覽、寫眞掲載案内、替古屋めぐり
案内 子

〔投書函〕

再び抜語よ就て(のんき坊) 昨今(莞爾)寸筆寸語
(木葉)新吉の斷髮(花亭)素行の四天王(洞成)報知新聞の記事に就て(藝笑)偶感一則(のんき坊)

〔百耳百評〕

吹拔亭の素人(木葉)舞子の客舎にて(舟子)竹本京枝(碧樹翁)住之助一座(櫻坊)愛之助一座評(莞爾)横濱の小豊後(藝笑)京子評(淡路里人、素政子、木葉)投書傳報(合作)

〔雜報〕

祖先例祭、報告書、事務所定る、鏝の下阪、呂瀬の改名、門造の改名、新吉の追善會、素行の松井田行に就て、研究會起る、織の一行、吉三の句、花方の休席、薩摩太夫、和國翁の消息、大坂通信、花方の最負連、席亭案内、

〔餘興〕

滑稽案談語(素朴) おまつり番附(拙庵) 課題(狂歌書生の義太夫) その他くさくさ

義太夫雜誌第三拾五號目次

〔寫眞〕

豊澤猿之助、鶴澤花友、竹本友之助

〔社説〕

曲界時事觀(三)

〔寄書〕

操人形の類別(承前)

戯曲を成就せしむる天然界

六樹園の雅文

〔文園〕

竹曲吟

忠臣藏俳句

〔新作〕

幼遊寺小屋後譚(完)

〔評判〕

巻頭の三影(猿之助、花友、友之助)評

鶴澤勇離の淺間嶽

越路と播磨と

大演藝會評判記

同俳句見立評

文字太夫紙治、梅登の御殿、

呂鼻の菅四、都の大字屋

桃の屋主人

戀川舟町

座山人

絃唱亭小土玉

井戸の屋鮒輔

座山人

判子

島千鳥

七文字屋微笑

合編

十毛舎一鱗

士太夫

晚調 翠橋

〔雜錄〕

實事譚

〔物識庫〕

四相五相、さつけつ

七度結で云々に付て

〔案内〕

義太夫替古所、素人連名一覽、寫眞案内

〔投書函〕

思ひ寄る儘(のんき坊)曲界小言(乙亭)のんき坊君

(木葉)雜感(莞爾)女太夫取締(娛樂齋)鮒侍

(洞成)雜誌記者に與ふ(のんき坊)大坂投書家諸氏

(飛文家)供養帳(みどり)投書傳報

〔百耳百評〕

新吉一座を聴く(櫻坊)京子の鳴門(莞爾)のんき坊

〔雜報〕

役員改撰の結果、織太夫一行、多門の歸坂、要太

夫逝く、相生仙臺に赴く、大坂通信、小米大吉の

行衛、大坂素人番附、光昇の追善會、馬關の景况

温習くさく、横濱の大さらへ、美遊連の温習會

高崎の素人義太夫大會

〔餘興〕

俳句(九年坊撰)狂句(柳齋撰)

富永士太夫

楠霞狂史

竹本某女

義大夫雜誌第三拾六號目次

〔寫眞〕

鶴澤大造、竹本文福、竹本津賀二、

〔社説〕

義大夫雜誌社懇親會席上の挨拶

曲界時事觀(四)

〔寄書〕

曲界漫話三(義大夫古跡巡り)

はなあやめ

〔文園〕

竹曲吟、狂句、俳句、狂歌、

〔新作〕

道行筆の命毛

〔評判〕

巻頭の三影(大道文福津賀二)

高尾太夫の太十

文樂座摘粹

〔雜錄〕

實事譚(千雨幟)

某太夫の談片

道に因て賢し

おほえ帳

〔物識庫〕

糸脈に就て

奥村錠四郎

桃の屋主人
廬山人

内田 茂文

評判子
晚翠生

富永太夫

七文字屋微笑

霧 湖
わらべみどり

楠露 狂史

入船加丸の解

濡衣の解

質問五件

〔案内〕

義大夫稽古屋案内、東京素人連名一覽、寫眞案内

〔投書函〕

代記者告坊(香氣坊)所感(すみれ女)タレギダの稱に就て(櫻坊)木葉君へ(のんき坊)友と語る(せわし坊)飛文家四五六君へ(富永しづ)霞洞成先生へ(愛京生)鮎侍よ就て(好婦情史)のんき坊に與ふ(乙亭蕨笑)投書傳報數件

〔百耳百評〕

朝太夫一座短評(すみれ女)朝太夫の壺阪(木葉)重八の寺子屋と紙治茶屋塲(善知鳥)隨聽隨評(莞爾)京子一座と俳優見立(〇〇生)都保美連の七段目掛合評(浪華舟子)竹本東菊(蕨笑)新瀉蕨妓の義太夫(はなの)竹本網龍(筑紫の學士)名瑠君一座評(飛文家)竹本廣勝(無平仄齋)

〔雜報〕

申合規則、織太夫の歸京、相生太夫の一行、多門太夫の計畫、納會、豊竹榮子、織王連の納會、鳴瀬太夫のさらへ、長久亭の素人興行、竹本鏡太夫第十四回大演藝會、文樂座の狂言、大坂通信、神戸の義太夫況、名古屋通信、濱松の義太夫藝妓、輪島のデン况、鬼石のデン况、兼花の再勤、義大夫雜誌社懇親會、義大夫席案内

〔餘興〕

義大夫切手(素朴)見立俳句(花米)課題(狂歌、俳句、狂句、竹曲の一諷)等

義太夫雜誌第三拾七號目次

〔寫眞〕

竹本昇太夫、竹本源之助、竹本春之助、

〔社説〕

曲界時事觀(五)

〔寄書〕

曲界漫話(古跡めぐり)

評新義太夫お就て

〔文園〕

竹曲吟、小政一座俳句

〔雜錄〕

淨瑠璃略解(妹背山三段目)

そゝる話(十)

作者没年月及年數

本朝廿四孝の事

淨瑠璃故事拾録

〔評判〕

拳頭の三撮影(昇太夫源之助、春之助)

小豊後の日高川

櫻濱演藝會評判

文樂明樂兩座摘評

〔案内〕

義太夫替古所、素人連名一覽

電傳子と答ふ(半二の凡庸に就て)太夫

桃の屋主人
島千鳥

絃唱亭小土守
橋花

愛溪居士

茂文居士

柳霞樓和洲

富永太夫

楠露狂史

評判子

茂句念

筆笠隱者

晚翠生

案内子

案内子

襖に就て(みどり)筑紫先生(岩永左衛子)

〔投書函〕

偶感(木葉)散髮六佳撰(和洲)思ふ儘(梅竹生)

播磨太夫に與ふ(木葉)若手諸嬢へ(椀白生)な

んでも帳(不粹生)不快なる一座(莞爾)偶詠二

首(米洲)小石川吞氣坊に答ふ(のんき坊)

〔百耳百評〕

竹本朝太夫(のんき坊)和國太夫の動作佳家(藝矣)

隨聽隨評(莞爾)豊竹駒子(霞洞)若之助の御所

三(櫻坊)豊竹相駒(乙亭)横濱支會の義太夫(

櫻坊)靱館美形揃(霞の家)豊竹玉緑(葦の家)

竹本若花(好曲小僧)博多女太夫の評判(野澤連)

小豊後一座評(鏡紫)投書傳報十七件

〔雜報〕

注意、播磨一座の紛紜付たり路太夫の事、越太夫

看牌と擧ぐ、祇園亭の素人興行、改名と修業、富

竹の素人、文樂明樂の狂言、大坂通信、神戸の義

太夫現、名古屋通信、博多のデン現、花輪町の景

況、石本亭の素人會、十六日以後の義太夫席、來

春一月の寄席顔付、

〔餘興〕

滑稽義太夫(素朴)娘太夫樂屋落(和洲)一分淺

考(合作)課題(狂歌、俳句、竹曲の一節、狂句、

語呂)その他くさく

義太夫雜誌第二拾八號目次

〔寫 眞〕

豊百和國翁、竹本花米、竹本綱枝、竹本東子

〔讀 賀新年〕

社員一同

〔社 説〕

一年間と女義太夫席

茂文居士

〔寄 書〕

義太夫蓄音器

桃の屋主人

譽の銘刀を讀む

手疊庵

〔文 園〕

竹曲吟、絳唱亭、歳日俳句(九年坊)外詩俳句

〔雜 録〕

そゝろ話(十一)

茂文居士

小野於通の筆蹟

雜 録 子

重井簡漫評

富永太夫

江戸時代の女義太夫

のんき坊

〔新 作〕

倭錦神旗風(前卷)

初雪庵主人

〔物 識 庫〕

箏曲の由來

筑 生

〔評 判〕

卷頭の影姿(和國翁花米、綱枝東子)

評 判 子

義太夫替古所、素人連名一覽

案 内 子

〔投書函〕

義太夫曲は美辭學の一種たるを論ず(南城)茂文居士のそゝろ話を讀て(不粹生)齋物の改良に就て(木葉)麥酒熱(莞爾)綾瀬太夫に告ぐ(木葉)感情如何(筑紫)我は土佐玉、京子を愛す(莞爾)氣狂連(柳堂)第二なんでも帳(不粹生)和印老爺に一書す(好婦情史)女義太夫三幅對(仙羽)竹本新吉嬢(木訥生)女義太夫三十六佳撰(柳霞樓)

〔百耳百評〕

隨聽隨評(莞爾)二枚目評判(合評)佳之助の辨慶上使(櫻坊)愛之助一座(停雲樓)小巴津の蒲州屋(乙亭)東菊の三代記(筑紫)芽生評(仙羽)土佐花を聽く(義狂)阪地女義十八番調べ(浪越庵)投書傳報

〔雜 報〕

綾瀬太夫の新淨瑠璃、文樂明樂兩座の狂言、相生太夫の歸京、扇芳亭の懇親會、本郷連の組織、清好と梅之助の初濬へ、陶雍會、改名、小巴津と土佐濱、改名の噂、大坂通信、神戸のゲン況、八王子の景况、新義太夫に就て、文之助一座、席亭案内、

〔除 興〕

千壽萬歳興傾城(和洲)、全躰耻おてんば(好婦情史)、

〔附 録〕

課題(狂歌、俳句、狂句、竹曲の一節)、七福神見立その他くさくさ

義太夫誌雜第二拾八號目次

〔寫眞〕

吉田國五郎、鶴澤九藏、鶴澤三系

〔社説〕

既往一箇年間の義太夫界を叙して向後一年間の趨勢を論ず

〔寄書〕

義太夫蓄音器

〔新作〕

倭錦神旗風(續)

席文に換ゆる口上一篇

小田家の煙

〔雜録〕

淨瑠理秘曲粟

妹皆山三段目略解(續)

藝界漫話

小野お通と薩摩浄るり

竹曲吟

ぞいろ話(十二)

實事譚

作者波年月日(二)

〔物識庫〕

回答一則

質問四件

〔評判〕

巻頭の三影(國五郎、九藏、三系)

坂地女義三十六佳選

阪女義評判記

〔案内〕

警古所案内、素人連名一覽、組合役員表、警古所めぐり(三)

〔投書函〕

所望(丹々堂、偶感(筑紫)初刷の本誌を讀て(梅竹生)そいろ話を讀て(華廼家)問答四則(無平仄齋)うらなひ(如雲)六佳撰に就て(和洲)睦と稱する五軒に與ふ(櫻坊)

〔百耳百評〕

路太夫一座(梅竹生)隨感隨評(莞爾)二枚目評判(合作)雜評(停雲樓)明樂座略評(晚翠)本郷連の演藝評(嗜曲生)大坂素人連漫評(晚翠)投書傳報數十件

〔雜報〕

淨瑠理脚本に付き、燕作の名前、明樂座の狂言、曲界彙報、大滿藝會番組、十六日以後の席亭案内の大阪通信

評判子

浪花舟子

好曲亭阿彌助

案内子

野澤吉三抄錄

愛溪居士

七文字屋微笑

柳露樓和洲

絃唱亭小土玉

内田茂文

義太夫雜誌第四拾號目次

〔寫眞〕
豊澤助三郎、竹本素竹、竹本綾太郎

〔社説〕

既往一箇年間の義太夫界を叙して向後一年間の趨勢を論ず〔承前〕
茂文居士

〔寄書〕

四十號の感
桃の屋主主人

〔新作〕

倭歸神燒風〔終結〕
初雪菴主人

小説金時計〔一〕
無松菴主人
茂文補綴

〔雜錄〕

浄瑠璃音曲樂〔承前〕
野澤吉三抄録

妹谷山三段日略評
愛溪居士

浄瑠璃節の濫觴に就て
柳霞樓和洲

奎室の桂川曲
花の家鋸月

竹曲吟
絃唱亭小土玉

〔物議庫〕
金輪際、普薩廻、紫塵黄金の解

まじひ外質問三件

〔評判〕

案頭の三影〔助三郎、素竹、綾太郎〕評
判子

根わり章
竹豊居士

大演藝會評判記
合評

阪地女義評判記
文樂、明樂兩座摘粹
好曲菴阿彌助
晚翠生

〔案内〕

義太夫替古所一覽、替古屋めぐり〔四〕

案内子

〔投書函〕

睦席に與ふ〔GM生〕、綾瀬と燕作の看板に就て〔御存史、東洋の西洋語比喩〔筑紫〕、喫烟と音聲〔飛文家〕、曾々呂言〔如雲生〕、評なる物〔梅竹生〕、投書傳報に付き〔戀子坊〕、住吉師の繰座〔花米、越造〕

〔百耳評〕

大ろ下亭に路太夫を聴く〔梅、櫻、緋太夫の堀川、停雲樓、二枚目評、合評〕綾太夫の玉三〔助、前〕小豊後の通橋〔乙亭、芽生〕其二〔仙羽、眞打女太夫比較表〔公平生〕、狂句見立〔賀賀大炊〕、蘭昇の朝顔〔すみれ〕、藝評袋一括り數件、投書傳報數十件

〔雜報〕

寄席の年税、組太夫の糸、綾瀬太夫の語物、下阪の數々、出京の數々、曲界瑣聞、十六日以降の席亭案内、大坂各席の三月景况、地方旅行の太夫、女太夫の數件、神戸の景况、名古屋通信、新刊紹介

〔餘興〕

課題狂歌〔桃の屋主人撰〕十四首

義太夫雜誌第四拾壹號目次

〔寫 眞〕

竹本多門太夫、竹本小巴津、竹本政一、

〔社 説〕

曲界雜論(寄席の語物)

〔寄 書〕

曲界漫話(五)

倭錦神旗風を讀て

〔新 作〕

増鏡山忠義の八梅

小説金時計(其二)

〔文 園〕

竹曲吟

茶話會出席員の風采

〔雜 録〕

妹脊山三段日略解(承前)

並木正三

實事譚(腰越狀)

春の摘草(墓探し)

曲界逸事録

古事拾録

〔物 識 庫〕

しゝらびの解(柳霞樓、琴松、櫻洲)、三衣袋の解
綠堂、和洲)六道能化の解(戀字坊、和洲、有樂生、

榮子)菩薩廻に付て(竹本さくら)紫磨黄金の解
(みどり生)ほてつ腹の解(和洲)質問六件

〔評 判〕

卷頭の三影(多門太夫、小巴津、政一)

東猿と柳糸

明樂座摘草

雪月花三少嬢

演藝家氣焰談

評 判 子

島 千 鳥

晚 翠 生

溟 華 舟 子

無松庵主人

〔投 書 函〕

本誌第四十號を讀て(戀字坊)義太夫節を論す(不

粹)偶言録(如雲山人)筑紫先生に問ふ(梅竹生)未

來の眞打達(櫻坊)歴史の觀察(和洲)

〔百 耳 百 評〕

岡太夫一座(いろは)綾瀬太夫の伊勢物語(梅竹生)

美音秀藝録(丹々堂痴人)播磨の紙治(いろは)播磨

一座(乙亭)團昇を評す(停雲樓)阪地實生館略評

(やなき)芽生評(仙羽)比較表に就て(不粹)藝評袋

投書傳報數十件

〔雜 報〕

明樂座の狂言、越磨太夫の出席、生駒と吉彌、横

濱の相生一座、團平の一周忌、曲界瑣聞、投書家

茶話會、席亭案内

〔餘 興〕

課題俳句、橋見立、物輪、追福俳句其他種々

義太夫雜誌第四拾貳號目錄

〔寫眞〕

竹本相瀨太夫、竹本團具、豊竹小巴、竹本房子、

〔社説〕

曲界雜論二(睡席の卑劣手段)

〔寄書〕

曲界漫話(六)

〔文園〕

竹曲雜詠

淨曲十絶

〔新作〕

増補忠義の八ッ梅

義太夫小説

〔雜録〕

淨瑠璃略解(妹脊山三段目)

天野屋利平の俳句

曲界逸事録(二)

菅公と李白

實事譚(日高川)

木内宗吾の系統

演藝家氣焰談(燕作、咲廣)

〔物議庫〕

解答(標茅原、臺座の別、葦垣、あろの鏡)

〔評判〕

質問(阿鼻焦熱外三件)

桃の屋主人
富永太夫

枯木山人
青嵐

野澤吉三
も松菴原稿

愛溪居士
島千鳥

柳霞樓和洲
去太夫

花の家抄
乙松菴主人

筑紫板敷
筑紫板敷
筑紫板敷

卷頭の四影

竹本千歳の玉三を聴く

文樂座摘華

竹本越子の寺子屋

〔案内〕

替古屋めぐり五(野澤玉造)

〔投書函〕

寓言(いろは)四十一號記事の誤謬に付、奥村椋分)綾瀨太夫に與ふ(梅竹生 氣焰談段聲(如雲)敢て二策を獻す(捨入續未來占ひ、如雲)花友腕金剛力士(塵雄)梅竹生さんに答ふ(筑紫)

〔百耳百評〕

織太夫の利生記舟宿(梅竹生)相瀨太夫の柳を評す(藝笑)東猿の善光寺を聴く(櫻坊)二枚目評判(合評)癖直し(有樂生)東猿一座評に就き(停雲櫻)坂地腕揃一口評(みどり)名古屋義太夫評判記(飛文家)藝評袋、投書傳報

〔雜報〕

睡席と播磨、文樂座狂言、路と小庄の歸坂、春子太夫一座、素若の廢業、各太夫歸坂の真相、社長奥村の下坂、相瀨太夫看牌を上ぐ、義太夫茶話會席亭案内、大坂通信、神戸の景况、伊勢崎の景况

〔餘興〕

俳句、兜軍記文句見立、情の一颯、

評判子

竹豊居士

晚翠生

阿彌助

案内子

義太夫雜誌第四拾參號目錄

〔寫 眞〕

竹本瓢太夫、竹本照玉、竹本東猿、竹本東三、

〔社 説〕

曲界時論(三)……寄席取締の厲行に就て

〔寄 書〕

白石晰の作に就て

桃の屋主人

新作鏡山忠義の八梅を讀て

排水居主人

〔雜 錄〕

淨瑠璃秘曲柴(二三)

故鷗澤勇造遺書
野澤吉三抄錄

善太夫淨瑠璃沿革

枯木 山人

山崎美成の淨瑠璃の評

二木 捨八

西澤一風

柳霞樓和洲

帳中抄錄

楠露 狂史

淨瑠璃略解(妹脊山三段目)續

愛溪 居士

實事譚(嫩軍記)

去 太 夫

〔物識庫〕

筑 紫

ちろの鏡の解につき(舟町)葦垣の解よりして(田龍)前號筑紫君の質問(戀字坊)筑紫子の質問に就て(有樂生)阿鼻焦熱の解(有樂生、塵雄、そなれや)

質問……新口村の文句(義好童子)

〔評 判〕

卷頭の四影

評判子

京子と京勝

島 千 鳥

竹本東枝の鰻谷

茂 句 念

睦太夫の五斗

停雲樓主人

相瀬太夫の勘作住家を聽く

丹 堂

〔投 書〕

語物の改良に就て(有樂生)偶感(莞爾)女義太夫の今昔(あなかうど)筑紫先生に問ひ併せて記者と望む(捨八)停雲樓筑紫兩君へ(落葉子)思出せし儘(喃華樓)筑紫學士を筆誅す(梅竹生)藝界未來記(正文)特に停雲樓さんへ(筑紫)藝人と容貌(のんき坊)百耳百評―癖直誌(有樂)朝太夫の兜軍記(梅竹)

〔雜 報〕

風紀取締の厲行、文樂明樂の狂言、綾太夫の死去、坂地雜信、同別信、曲界瑣報、席亭案内、

〔餘 興〕

小説金時計(無松菴)狂句、語呂、臍茶晰(和洲)(花米)新刊紹介

義太夫雜誌第四十五號目次

〔寫眞〕

豊澤力之助、竹本小土佐、竹本清助

〔社説〕

東西義太夫の異點(上)

〔寄書〕

曲界漫話(七)

〔文園〕

浄瑠璃十二支雜俳

外題物名俳句

〔雜錄〕

義太夫浄瑠璃沿革(三)

浄理秘曲栞(續)

妹脊山三段日略解(續)

福内鬼外

浪華十産(二)

演藝家氣焔錄

曲界逸事録(三)

〔物識庫〕

安達三文句に就て田龍生の説を駁す 伊呂波

新口村文句解の追加(和洲)、平沙善知鳥云々に付き(落葉子)、白浪の解(和洲、落葉)戀字坊の答辨に就て(松風)、質問四件

〔評判〕

茂句念

桃の屋主人

九年坊

國の屋長丸

枯木山人

故勇造遺書

野澤吉三抄録

愛漢居士

柳霞樓和洲

内田茂文

合編

楠露狂史

巻頭の三影(力之助、小土佐、清助)

大隅太夫一座評

大隅太夫の鯉谷

小土佐の宮内邸

〔投書函〕

紙面の改良を望む(島千鳥)放言、浪華舟子)一夕話(莞爾)清蔭子)一矢參らん(いろは)竹影婆娑を讀む(喃亭洒落太)諸嬢に寄す(春の正文)寄席に於る聽客の好位置、トコロチン公)一生の浩歎(土太夫)敢て反省を促す(松華菴)聽曲資格論に就て(いろは)答辨一東(梅竹生)暑中見舞(浪華舟子)百耳百評(相駒の陣屋)停雲樓 癖直誌(有樂生 清助のキヤリ)倭文(呂京の壺奴)停雲樓(政一)日吉(木卯)吉春(春の)和玉と士調(白傳老人)梅登、千代登、湊春(みどり)義太夫風呂數十件

〔雜報〕

文太夫の上京、大隅一行、地方行と出席、呂界の上京確定す、改名三嬢、越後津の一行、素人連の組織茶話會、曲界瑣報、寄席案内、大阪通信、神戸義太夫況、曲界未來記

〔餘興〕

小説三人冗語(戀川舟町)眞打廿句見立(停雲樓)花のいろ(春の園守)謎寄(一日亭)鏡山俳句(花米)語呂(六花)藝品と畫品(筑紫)情の一颯その他

評判子

丹々堂有樂生

壯語樓鎖山

茂の字

有樂生合評

梅竹生

義太夫雜誌第四十六號目次

〔寫眞〕
豊竹呂昇一座

〔社説〕
東西義太夫の異點(中)

〔寄書〕
曲界漫話(八)

〔文園〕
詩、歌、俳句

〔雜錄〕
浪華土産(三)

實事譚(義士討入)

演藝家氣錫録

和泉忠衡の妻

〔物識庫〕

解答(鳥羽玉と泡沫、九華帳の李夫人、雑色、白浪、春や昔、善知鳥、夢野の鹿、極彩色の作者)

四ッ谷の松風氏へ
テ、なる語の使方に就て
質問四件

〔評判〕

巻頭の姿影(呂昇一座)

都保美連の七種寶

文字太夫の逆櫓
織太夫一座

茂句念

桃の屋主人

内田茂文

合太夫編

柳霞樓和洲

和洲、戀字坊、松風、
鈕月、豊澤松七、

戀字坊、松風、
鈕月、豊澤松七、

琴坊

評判子

柳霞樓

茂の字

綾瀨翁の喜内住家
よしあし一口評

〔投書園〕

唯我録(天放仙)藻鹽草(八十八)藝界雜感(春の)よしなし言(如雲)落葉のきれく(落葉子)噫野澤語八師(いろは)藝人と品行(喃亭)所謂端書投書家に與ふ(金鐵)曲を聴く者に寄す(臺神)片々交り(樂々生)偶録(筑紫)偶言二則(鈕月)阪地義太夫席の改革を促す(飛文家)傳々翁に答ふ(爲坊)

〔百耳百評〕

大造の本藏下郎(落葉子)綾瀨の天王子村(松華庵)癖直誌(有樂生)友之助の戀十(木卯)都の太十(合評)清之助の鳴門(秋風)東枝の玉三(本郷)重太郎と市太郎(絃々翁)義太夫風呂數十件

〔雜報〕

祖先の例祭、文樂座の狂言、岡太夫の一行、語八逝く、竹本文太夫、土佐吉再び出席、呂昇一座、曲界瑣報、大阪通信、神戸の景况、席亭案内、來月の茶話會、

〔餘興〕

三人冗語(戀川舟町)女義頌德表(トコロテン公)寄席文(春の)冠句(林々舎)其他課題狂歌、情の一飜、俳句、一口洒落、其他くさく、

三筋の糸成
阿彌助

義太夫雜誌第四十七號目次

〔寫 眞〕

鶴澤燕二、竹本京勝、竹本東枝、竹本素秋、

〔社 説〕

東西義太夫の異點 (下)

茂 句 念

〔寄 書〕

今昔の感

桃の屋主人

〔雜 錄〕

義太夫淨瑠璃沿革 (四)

枯木山人

思ひつ記

五鈴堂主人

俳諧と淨瑠璃作者

柳霞樓和洲

溟華土産 (四)

内田茂文

〔文 園〕

花の屋月次狂歌會餘興、圓覺寺文句結歌仙、

〔物 識 庫〕

雜色の解に付きて(和洲)戀字坊氏へ(松風)白石嘯

の訛に就て(有樂生)琴松氏へ(和洲)百萬遍、三千

世界、節季候の解(同上)喜内住家の「ヤア」に就き

(和洲、いろは)夢野の解(豊澤松七)質問五件

〔評 判〕

巻頭の四影 燕二 京勝 東枝 素秋

茶話會演藝評判 (呂昇の橋本)

評 判 子
茂の字屋

呂昇の寺子屋

停雲樓主人

〔投 書 函〕

竹影參差 (清蔭子) 失題 (丹々堂) 偏見 (戯太夫)

井蛙抄 (頓亞法師) 所謂睦五軒席に與ふ (壯晤樓さ

くら) 樂々生に答ふ (いろは) 續擬氣焰錄 (有樂

生) 藝界雜感 (傳童子) はきよせ (落葉子) 手拍

子黨の爲に泣く (トコロテン公) 千思萬層數種

百耳百評 文太夫の合邦 (松華菴) 住之助の野崎

村 (落葉子) 呂昇一座評 (九年坊) 若之助の日蓮 (愛

松) 東猿一座 (停雲) 呂昇の仙代 (さくら) 癖直

誌 (有樂生) 義太夫風呂數十件

〔雜 報〕

大温習會、岡太夫の一行、東猿一座、義太夫茶話

會、曲界瑣報、神戸通信、席亭案内、

〔餘 興〕

三人冗語 (戀川舟町) 社燕記 (都) 俳句 (トコロ

テン公) 見立十四品 (秋風) □△○錄 (月の家雪

山) 臍茶話 (柳霞樓) 洒落問答 (美の字) 追悼句募集

稟告、投書家一覽

義太夫雜誌第四十七號目次

〔寫眞〕

竹本朝子太夫、竹本東菊、竹本素雪、

〔社説〕

東西義太夫の異點 (續)

〔寄書〕

今昔の感 (二)

清蔭子の僻論

〔文園〕

竹曲百吟

忠臣藏狂句

〔雜錄〕

淨瑠璃秘曲琴 (續)

物草太郎の淨瑠璃本に就て

後幕と比羅の題字

司馬芝叟

〔物識庫〕

白石齋、式臺、吳服鳥

解答五件、質問九件

〔評判〕

卷頭の三影 (朝子太夫、東菊素雪)

竹本素雪

東猿の宗五郎詮義

茂句念

桃の屋主人 嵐

五鈴道 入
白露庵 鎮山
春の家雨柳

野澤吉三抄錄
五鈴堂主人
内田茂文
柳霞樓和洲

桃の屋

評判子
本郷〇〇生
茂乃字

越子の吉田屋

〔投書函〕

清蔭子に二の矢を放つ (いろは) 孤竹録 (清蔭子)
橙通を嘲る (芝蘭亭香墨) 偏見 (戯太夫) 藝評に
就て (春の正文) 女舞衣を讀で半七三勝た園の心
事に及ぶ (トコロテン公) 經論繪議數篇、百耳百
評 || 末虎の佐太村 (竹林嘯風) 播磨一座略評 (白
露菴) 住之助の野崎村 (壯語樓) 播磨の伏見里 春の
呂京一座評 (秋風) 京峯の寺子屋 (同上) 喜賀志連
の義太夫會 (無松庵) 呂昇の山科隱家 (魯愚庵)
義太夫風呂數十件

〔雜報〕

綾瀨と相生の合併、織太夫兵吉の分離、相生の一座
小さの太夫の改名、納會の種々、傳四改名の噂、文
樂明樂の狂言、豐子の再勤改名看版、東猿一座、正
誤、曲界瑣聞、席亭案内、大阪通信、堺のデン况、神
戸のデン况、地方女義數件、寫眞掲載案内

〔餘興〕

豊竹佳昇 柳霞樓和洲
□△〇の解 氣賀大炊
當世義太夫 || 對 || いろは譬 娛妍喋史
課題俳句

停雲樓主人

義太夫雜誌第四十九號目次

〔寫 眞〕

鶴澤専系、竹本春玉、鶴澤咲廣、

〔社 説〕

少年義太夫一座を組織すべし

〔寄 書〕

今昔の感 (三)

〔文 園〕

竹曲百吟 (二)

外題冠字歌仙

〔雜 録〕

義太夫淨瑠璃沿革 (五)

竹曲蒙求 (一)

百九十八年前に於る今月今日

玉子に虫が居る

〔物 識 庫〕

解答六件 ● 質問三件

〔評 判〕

巻頭の三影 (専系、春玉、咲廣)

廣勝の日吉三

茶話會納會餘興演藝評

〔新 作〕

花川戸浮世廻嵐

茂句念居士

桃の屋主人

合 作

美 代

枯 木 山 人

茂 乃 字

五 鈴 堂 主 人

莞 爾

停雲樓主人

茂 の 字

野澤吉三

〔投 書 函〕

傳通家に望む(戯太夫)、茶話會の既往を叙して義曲嗜好家に告ぐ(丹々堂)、聽客連合員に警告す(トコロテン公)、曲界百舌〓九件、百耳百評〓東猿の本藏下邸、小彌儀のお輕注進、清昇の松王邸、外三件、義太夫風呂〓數十件、文樂座の淨瑠璃を聽く(晚翠士太夫)

〔雜 報〕

寄席木戸錢の直上、柳太夫と政藏、長廣の上京の期、温習會、竹本倭太夫没す、睦太夫の出席、伊勢太夫と三春太夫、文樂座の狂言、大演藝會、呂昇一座、呂昇のお座敷、東廣上京の噂、大坂通信、地戸の男女太夫、曲界瑣報、茶話會納會、席亭案内、

〔案 内〕

組合役員表、素人連名一覽、寫眞掲載案内、

〔餘 興〕

冬の月 (完)

柳霞樓君の仙臺へ赴くを送る

當世義太夫對〓いろは噺(承前)

文士顔觸見立、追悼吟集、俳句、狂句、一口洒落、語呂、その他くさく

春の正文補稿
もくれん

桔梗の助

嫉妍喋史

義太夫雜誌第五十號目次

〔寫眞〕
書澤兵造、竹本小正、竹本攝志磨、

〔社説〕
今年の義太夫淨瑠璃界……………茂句念居士

〔寄書〕

新道の發達……………桃の屋主人
前號の社説を讀む……………七文字屋徹笑

〔文園〕

七福俳句……………九年坊
義太夫文句入歌仙……………初雪庵
曲界三節……………いろは
倭文籠通題俳句……………トコロテン公

〔小説〕

義太夫小説續合十二月(臘月の巻)……………合作

〔雜錄〕

竹曲蒙求(一)……………茂乃宇
三の冠字院本……………雜錄
淨瑠璃初心聚草……………野澤吉三

〔物識庫〕

聲答(難祭の蓋觸)……………てんぼの、は)……………柳霞樓
日本橋デン狂生(……………柳霞樓
はげさおけぞへ、はつち、木道の蓋觸)……………柳霞樓
れこ、……………柳霞樓

賞問八件

〔評判〕

巻頭の三影……………評判子
東猿の杉の森……………雲樓

末虎の靈坂……………七文宇
文樂座短評……………晚翠生
明樂座短評……………好曲庵河瀬助
本郷連の初さら……………晴曲生

〔新作〕

花川戸浮世の風……………野澤吉三

〔投書園〕

聽者の徳義……………春の正文
七者榮……………戯ろ夫
偏見(二)……………トコロテン公
我は愧ぢん……………ふ松
男放蕩家に興ふ……………Y
茶話會の再興を望む……………M
秋風生に興ふ……………は生松
百耳百評……………い
イザリ十一冊目……………菊
多門太夫の三勝半七……………松本花之助
金城席の忠臣蔵評……………みぎり生
水淺の熊谷陣屋……………みぎり生
義太夫風呂……………みぎり生

〔雜報〕

淨瑠璃神社の新築、竹本綾瀨太夫の改名、野澤語助一門の新年會、美濃太夫の改名出席、相生太夫の歸京、野澤語六の改名、竹本七五三太夫の上京出席、鶴澤傳四横濱に轉居す、越路太夫熱心奮に志す、文樂明樂兩座の狂言、豊竹呂昇一座の一行、竹本長廣の上京、本郷連の新年初會、竹本初子の改名、大阪通信

〔案内〕

東京素人義太夫連名一覽表、義太夫稽古取案内、義太夫節組合役員表、寫眞掲載案内

〔餘興〕

義太夫茶番演舌……………戀川舟町
續口△○錄……………月の家雪山
女義名入一口洒落……………しらんてい
俳句、課題俳句、課題狂句、課題語呂、竹曲一編、ものは付、其他くさん

義太夫雜誌第五拾壹號目次

〔寫 眞〕

斯道祖先竹本筑後少掾、竹本七五三大夫、鶴澤燕作、豊竹相駒、竹本朝之助、和合連孝玉、淺草連高森、鶴寶和玉、木郷の花盛、

〔社 説〕(一)

現今の寄席語物に就て

〔寄 書〕(五)

義太は未だ股引を脱せざる乎……………桃の屋主人

〔文 園〕(七)

竹曲百吟……………五 鎮山 鈴
曲界戯咏……………自然庵素朴
祝句四章……………
俊文範通題俳句……………トコロテン公

〔小 説〕(八)

綴合十二月(如月の巻)……………合 作

〔雜 録〕(一二)

竹本義太夫の眞像……………茂 句 念
竹曲蒙求(三)……………茂 の 字
昔時の稽古本……………弓 窟 主 人
面影抄(挿入寫眞の紹介)……………雜 録 子
淨瑠璃初心葉説の解……………野 澤 吉 三
三勝半七の實話……………春 の 正 文

昨年中に於ける文樂座の狂言外題……………雜 録 子

〔物 識 庫〕(一九)

解(十種香、にべ、壽語六、斗爲吟、橋供養の作者、のつしり)……………柳霞樓和洲
鼠 骨 妨

再び白石齋に就て……………有 せ 丸
解(世話時代の淨瑠璃)……………鼠 骨 坊

質問六件

〔新 作〕(二五)

花川戸浮世廻風(承前)……………野 澤 吉 三

〔藝 評〕(二七)

竹本七五三大夫、竹本長子大夫、竹本長廣一座略評……………評 判 子

小土佐の鳴門八……………停雲樓主人

明樂座忠臣蔵一力茶屋場一口評……………太 夫

昇之助の酒屋……………阿 彌 助

〔投 書 函〕(三四)

社引續披露宴會雜感……………トコロテン公

運動淨瑠璃……………莞 爾

所謂傳通なるもの……………春 の 正 文

壺阪曲中挨拶に於ける予の見解……………秋 風 生

……………秋 風 生

……………秋 風 生

……………秋 風 生

放言……………獨 唱 子
曰く録(一)……………長 濤

義太夫の功拙は稽古の厚薄に因る……………水 鏡

……………水 鏡

……………華の家榮子

〔百 耳 百 評〕(四二)

朝大夫に望む……………芙蓉 山人
短評一二……………春 水 居
旭連短評……………豊澤助兵衛
吉春の鈴ヶ森……………春 の 生
義太夫風呂數十件

〔雜 報〕(四七)

織太夫の三味線、女義太夫の新年會、和國相瀨龍造の一行、鶴澤豊造逝く、阪地明樂座の狂言、長廣一座、小正の改名、片々、七五三大夫の一行、名古屋通信、伊勢崎通信、大阪通信、神戸の義太夫況、地方行の太夫、都保美連一座、横須賀傳報、新刊寄贈雜誌、本社引續披露會の景況、在地方の女義太夫、

〔案 内〕(五三)

素人義太夫連名一覽、義太夫節組合役員表、義太夫稽古所案内、寫眞掲載案内、義太夫席案内(附録)

〔餘 興〕(五六)

……………天 眼 通

義太夫雜誌第五拾貳號目次

〔寫眞〕

竹本長廣一座

〔社説〕(二)

義太夫曲は一種の人心測量器なり……………

……………茂句念居士

〔寄書〕(三)

義太は未だ股引を脱せざる乎……………

……………桃の屋主人

〔文園〕(五)

長廣一座春季花見立……………九年坊

素行一座を詠る……………莞爾

狂歌職人義太夫……………夢原遁坊

倭文範通題併句……………トコロテン公

傳界時事吟……………紫牛

〔小説〕(七)

綴合十二月(彌生の巻)……………合作

〔雜錄〕(十)

比羅の新意匠……………茂文

淨瑠璃初心乗草、詛の解……………野澤吉三

院本趣味の仁和賀……………島千鳥

赤根屋半七の遺書……………華道家榮子

花川戸助六考……………柳窓亭春彦

面影抄(挿入寫眞の紹介)……………雜録子

談片……………靜波

〔物織庫〕(二〇)

前號質問の解(紙衣仕立外五件)……………

……………柳霞樓主人

解(木偶つひ)……………豐竹小豊後

質問(六具外四件)……………

〔藝評〕(二二)

竹本さの太夫……………評判子

竹本和佐太夫……………同

長廣の堀川……………停雲樓主人

東猿丈に御註告……………柳霞樓主人

文樂座摘萃……………晚翠生

〔投書函〕(二九)

淨瑠璃と表情容貌……………鼠骨坊

現今の寄席改良に就て……………有樂生

席亭の権理と藝人の権理……………嘉紀くけ子

返し矢文三章……………以呂波

茂句念子に問ふ……………丹三

天才と藝風……………トコロテン公

女義太夫諸嬢に望む……………彦左衛門

曰く如く……………五徳生

〔百耳百評〕(三七)

三十棒……………秋風生

年少女義大八……………鎮山

萬年亭一口評……………春水居

坂地女義寸評……………好曲庵阿彌助

綾太郎の玉三……………花下長雄

義太夫風呂數十件……………

〔雜報〕(四一)

相生一座、和國翁の一世一代、吉彌の名残

會、綾瀨の改名に付、阪地文樂座、曲界瑛

報、大阪通信、神戸の景況、雜信、小野の

お通の墓、

〔餘興〕(四四)

羅雅詞……………夢原遁坊

專賣的技藝の妙味……………芙蓉山人

外題狂句……………藤紫樓柳坊

一口洒落……………白川駒颯

課題……………

義太夫雜譚第五拾參號目次

〔寫眞〕

竹本長子太夫、竹本和佐太夫、竹本大八、竹本幸子

〔社説〕

興行に於る淨瑠璃の精神を論し併せて文樂明樂兩座の衝突事件に及ぶ大巻縫之進

〔寄書〕

語物の變遷 桃の屋主人 傳信記 雲兵衛

〔文園〕

竹曲百吟(四) (五鈴堂主人 白露庵鎮山)

狂歌鳥類義太夫 翁齋音琴

興雅會月次狂歌合 桃の屋主人判 祝歌 素村、夢公

〔新作〕

花川戸淨世若風(續) 野澤吉三

〔雜錄〕

男義太夫席の婦人客 茂文 淨瑠璃初心菜一詠の解(員) 野澤吉三 面影抄(寫眞の紹介) 雜錄子

寄席のやぐら

〔物識庫〕

勸號質問の解(員外三件) 質問(せんたく外三件)

〔藝評〕

竹本緑太夫 二ツ井戸雲評 明樂座摘萃

〔投書函〕

曲界所感 一面より女義に望む 友之助に與ふ 開封三通 友之助さ君之助 隨錄

〔百耳百評〕

祇園亭短評 琴亭亭短評 相生大夫の六十

〔案內〕

那保美連短評 竹本東代玉の帶屋 義太夫風呂數十件

〔雜錄〕

組合役員の小集會、坂地明樂座、住太夫一

座の東上、興行の統計、鎌太夫の書翰、重

之勤一塵、天利亭の焼失、初太夫没す、淨

瑠璃文學便り、大坂通信、神戶義太夫案内、

男女太夫の地方行、雜件、

滑稽先代萩 義太夫實歴

〔夜〕 〔何〕 〔補〕

自然庵養料 筆の屋主人

口亭 意蝶外史

汁、粉、生

梅の家かほる 春の正文

佛句景色 醫竹堂撰

〔案內〕

素人連名一覽、義太夫節組合役員表、稽古

所案内、寫眞掲載案内、席亭顔聞一覽 稽古師匠投票彙集

義太夫雜誌第五拾四號目次

〔寫 眞〕

竹本皎龍軒、竹本重之助、豐竹湊吉、豐竹昇之助

〔社 説〕 (一)

東京義太夫節組合の紛議に就て

〔寄 書〕 (三)

明樂座の大薩摩に就て…………… 桃の屋主人

〔文 園〕 (五)

義太夫雜詩見立俳句…………… 公羽齋
曲界狂歌百物語…………… 自然庵素村

〔新 作〕 (七)

花川戸浮世道風(總)…………… 初雪庵主人

〔雜 錄〕 (九)

六十年前に於る東京女義太夫……………
寄席めぐり(一)…………… 茂 句 念
院本雜談(一)…………… 茂 の 子
談片…………… 靜 波
面影抄…………… 雜 録 子
淨瑠璃初心菜「訛の解」(續)…………… 初 雪 庵

〔小 説〕 (二八)

新看牌續…………… 夜 某 又 開作

〔物 識 庫〕 (二九)

解答「旭透社外三件」…………… 白川駒瓢外
質問「凱陣八島外五件」…………… 諸 氏

〔藝 評〕 (三〇)

竹本住太夫一座…………… 評 判 子
阿蘇太夫と綠太夫…………… 同

〔投 書 函〕 (三三)

大卷氏の所論を駁す…………… 有 樂 生
雜見聞錄…………… 春 の 正 文
高座の品格…………… 筆 の 屋 主 人
小話一束…………… 芙蓉山人
提灯持に就て…………… 黄班寫文虎

〔百 耳 百 評〕 (三二)

義太夫風呂敷十件……………
掃塵太夫一座短評…………… 有 樂 生
短評一二…………… 淡 山
琴亭亭略評…………… 有 樂 生
竹本廣之助の鈴ヶ浜…………… 新 菊 生
短評寄席あつめ…………… 春、水 居
東叢と長廣の壺坂…………… 竹 本 猿 廣

昌京と重八…………… 呂 八 生
竹本小巴津…………… 阿 彌 助
土佐嶺の御所三…………… 同 上

〔雜 報〕 (三七)

義太夫組合の紛議、綾瀬の一世一代、刀圭社會の義太夫團軀、大坂通信、都保美連の顔聞、東昇一座、皎龍軒のさらへ、住太夫一座、重之助一座、長廣一座、南歌久席の揭示、改名女義、瓊報、野澤吉三の廢業、瓢太夫の下坂、麻布のさらへ、大阪通信、神戸の義太夫況、文樂座の狂言、各地の義太夫況、寄贈雜誌

〔餘 興〕 (四三)

道中瀧車煙…………… 自然庵素村
新作落語忠臣蔵五段目…………… 筆の屋主人
噂のいろく…………… 夢原通坊
竹界未來記…………… 苦笑庵主
女義五常の内…………… 繁紫樓主人
風俗五常の内…………… 繁紫樓主人
一口文句洒落…………… 一口亭 司
課題俳句……………

〔案 内〕 (五〇)

素人連名一覽、義太夫節組合役員表、稽古所案内、寫眞掲載案内、席亭顔聞一覽

義太夫雜誌第五拾五號目次

〔寫眞〕

竹本伊達太夫、越澤市太郎、竹本巴勝、野澤吉春

〔社説〕(一)

東京義太夫節組合の紛議に就て……(承前)

〔寄書〕(三)

有樂生なる人に與ふ……大巻縫之進
春野正文と嘗へる人に……慶峰

〔文園〕(五)

曲界百吟……紫牛道人
隨句隨評……七俳子

〔雜錄〕(六)

天保年間の斯道風紀取締……茂句念居士
院本雜話(二)……茂の字
聲曲雜談……北陸堂簡雪

〔面影抄〕

寄席の通ひ路……來間ひき子
諷片……靜波
寄席めぐり(三)……長瀧生
淨瑠璃實事録……楠露狂史

〔小説〕(一五)

新看牌(二)……夜叉又補作

〔物識座〕(二六)

解答(凱陣八島外五件)……庫番外五名
酒屋の文句……豐澤松七
質問(兼好法師の言)……未知歳

〔藝評〕(二八)

伊勢太夫と都太夫……評判子
綾翁のニツ井戸懸評……關竹生
胡樂座摘萃……晚翠生

〔投書函〕(三三)

はしりがき……荒爾
曲界瑣言……或言子
初心葉草の假名に就て……たけ木太郎
語物の改良に就て……筆の屋老人
女義太夫の風紀に就て……藤太降

〔百耳百評〕(三六)

紙扇亭の類評……有七樂日生
清水亭の新吉一座……花下長雄
常盤亭の小政一座……熊野贖輔
龜仙亭短評……有樂生
一筆走り評……靜乃波太郎
小土佐と呂京……たけ木太郎

〔餘興〕(四一)

禁制阿呆の落涙……柳露樓主人
某三味線唄の手帳の寫し……美壽字
尻下駄の獨言……汁粉生
けなしぐさ……夏久垣文虎
酒屋のサワリ文句見立……酒屋小僧
忠臣蔵辨句……東仙坊東山
傳々狂句……娛妍喋史

〔案内〕(四九)

女義太夫對水着……風鈴生
素人義太夫連名一覽、組合役員表、稽古所案内、内應、願附一覽、直打の苗字、課題、

鯉之助の寺子屋……好曲庵阿彌助

東嶺の政右衛門邸……一書生

義太夫風呂數十件

〔雜報〕(三八)

斯道組合の紛議落着、七賢神社建設の計画、駒太夫の建碑、さの太夫の函館行、相生太夫の絃、綾翁の改名披露會、曲界瑣聞、和國

翁の歌田行、女太夫の地方興行先、噂くさ

文、明樂座の狂言、組太夫、淨瑠璃文學

たより、

義太夫雜誌第五拾六號目次

〔寫眞〕

豐行呂太夫、野澤語左衛門、瀧澤素糸、前澤花代

〔社説〕(一)

時勢的語物を演ずべし

〔寄書〕(三)

北海のデン報

義太夫小説に就て

〔文園〕(五)

竹曲百吟

つば坂

〔雜錄〕(六)

義太夫淨瑠璃習草(六)

戯曲墳墓巡り

院本雜話(三)

天保年度の風紀取締に就て

寄席の通ひ路續

夕霧の森

寄席めぐり(四)

聲曲雜談(續)

乙部生 作傳子

五鈴道人

潤天子

枯木山人

茂文

茂の字

筆の屋主人

來問ひき子

春の正文

視察員

北陸堂麗雪

面影抄 紹介子

辨慶の本歌 煮開調者

映片 靜波

〔物識庫〕(二六)

解釋(龜の歴史二件) 以也、柳菫樓

有樂生君に申上り 庫書

賢問(前引さすわ外五件) 北内外五名

〔藝評〕(一八)

和國太夫一座 評列子

長廣の桃山御殿 同

〔投書函〕(二三)

音聲の作用 有樂生

新聞紙上の三味線評に就て 面毒齋

素人諸君に望む 白川駒瓢

總編輯感 金風生

富士本亭の投票に就て 壯語樓主人

憐むべし女義は宛を蒙れり 堂摺生

電燈先生へ 春の正文

大巻縫之進殿に答ふ 有樂生

忠告一則 勇起

見るまゝ はるの

おの語り 傳話生

義太夫風情十帖

〔百耳百評〕(二八)

越子一座忠臣蔵 白川駒瓢

小土佐一座 たげ木太郎

いさ集一筆評 靜の波太郎

義太夫の三代記 策の屋

東儀と長廣の塩坂 竹本猿廣

夢生三條 轟花園

素人義太夫領評 金太郎

〔雜報〕(三八)

綾繪一座、豊澤團八、小清一座の夏休、七五

三太夫一行、小令井の素人興行、小重太夫、

麻布の素人連大さへ、團之助の卒園、竹

本東勝の出席、大阪通信、神戸通信、名古屋

屋通信、曲界取組、

〔餘興〕(四一)

デン壇對文壇 まつもみ

面皮熱玉汁 しづなみ

忠臣蔵狂句 忘號生

課題其他くさぐさ

〔案内〕(四八)

素人義太夫通名一覽、組合役員表、稽古所案内、市内席券頒附一覽、

義太夫雜誌第五拾七號目次

〔寫 眞〕

吉田兵吉、豊竹まねき、豊竹照吉、鶴澤伸造、

〔社 説〕 (一)

曲界雜感

茂 句 念

〔寄 書〕

淨瑠璃の定義……………桃の屋主人
不問獨語……………口なしの翁

〔文 園〕

竹曲百吟……………五鈴道人
曲界時事吟……………合 吟

〔雜 録〕

陸本雜話(四)……………茂 文 字
寶曆年代の義太夫評判記……………茂 句 念 居 士
戲曲墳墓巡(二)……………茂 文
賓席の通ひ路(續)……………來 間 ひ き 子
吾妻と難波……………娛 妍 喋 史

面影抄……………紹 介 子

寄席めぐり……………視 察 員

諷片……………波

〔物 識 庫〕

淨瑠璃曲中戀の末路……………トコロテン公
解答(前引雜炊外二件)……………柳 霞 樓
故事考證(ひれふる山外一件)豊澤松七
辨慶の辨説……………愛水外一名

〔藝 評〕

小幾太夫と三春太夫……………評 判 子
文樂明樂兩座評判拔萃……………晚 翠 合 評
舟子

〔投 書 函〕

午睡餘錄……………樂 々 生
霞峯さんに……………都 鶴 生
源氏節に就て……………壯 語 樓 主 人
團結連の廳客語氏に望む……………腕 太 降
投票に就て……………梅 竹 生
義曲の改良……………一 楓 生
白川胸飄君に御相談……………想 斷 生

〔百 耳 百 評〕

國五郎一座一寸視記……………番 町 の 櫻 坊
素雪の日高川……………春 の 正 文
話し評誌……………春 水 居
勇三と文席のそり……………金 風 生
三枝三幅對……………藝 花 園

二見連の大渡……………あ の 人

操連の温習會評……………壯 語 樓

名瑠璃の寺見屋……………阿 彌 助

義太夫風呂敷數十件……………

〔雜 報〕

義太夫祖先例祭、綾翁の甲府行、竹本織太夫進く、岡太夫の一行、相瀬太夫の一行、長廣一座、播重本席と文明館の競争、大阪通信、地方行の男女太夫、神戸の各席、

〔餘 興〕

堂摺連某の日記……………雪 野 花 平
けなし草(二)……………ら く 垣 文 虎
銘酎全軌酒……………吞 氣 樓 小 浪
ひめき……………し づ 波
花方女義と公園……………一 楓
寺見屋に對する疑問……………俗 佛 庵
僕のテン壇對文壇……………好 對 子
寺子屋文句見立……………一 年 生 徒
巻煙草と男女太夫、贈答、課題等くさくさ……………
〔案 内〕
素人連名一覽、組合役員表、稽古所案内市
内各席願簡一覽……………